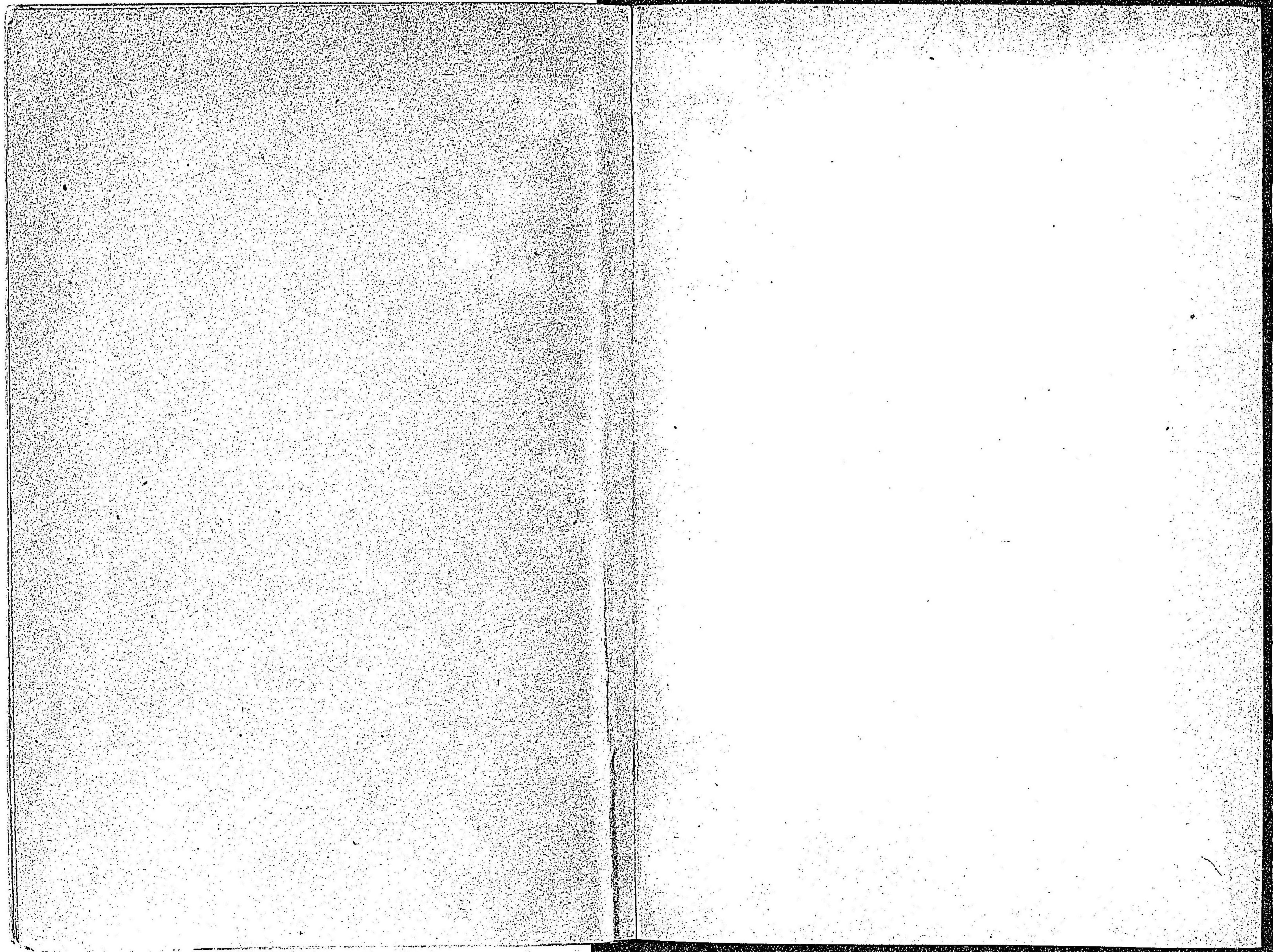


68
383

家用養食鷄全書

111



實用養雞全書前篇序



肉類の需要は世の開明と伴ひて益其増加を見るは統計上の事實なるが是蓋し太古安逸の時に在ては左まで肉食の必要を感じざるも今日の如き競争場裡に奔走する者は心身を勞する事甚しく隨て身軀各部の消耗を來すを以て之を補足すべき滋養食物の供給を要するなり

如此肉食は今日の要事なるが之を爲すの捷徑は家禽とす家禽は其飼養蕃殖極めて容易なるのみならず我國は古昔より獸肉を嫌ふの風習あるを以てなり

今や本邦の養雞業は漸次隆盛に赴むけりと雖も其飼養法は從來と異なく進歩の未だ普からざるは慨嘆の至りなり思ふに在來の養雞家は産卵を主とし需肉に重きを置かずざりしもの亦日本茶業進歩を踟躕せしめたる一因ならんか本書は産卵の目的を以てするの外、需肉の事に向ても詳細に叙述し勉めて實地家に適せしめん事を謀り學説

理論の煩を避けたり
余や淺學不才、文章極めて拙、誤謬脱漏亦之なきを保せず唯余は本書の後篇に淡海
藤井君が深切に筆を執り養雞の設計、經濟等を詳述し殊に「家禽年中行事」を掲げら
れたるは幾多既刊の家禽書中、優に一頭地を拙き本業實務家の参考となり更に本書
の光彩を添へたるは余の深く謝する所なり

明治廿九年一月

杉田文三識

實用養雞全書

前編 杉田文三君著述

目次

- 第一章 總論
- 第二章 雞の種類(後篇にもあり
參看すべし)
 - 第一節 産用卵雞
 - 其一 「レグホン」種
 - 其二 「ホーランド」種
 - 其三 「バンバーク」種
 - 第二節 食用雞
 - 其一 「アラマ」種
 - 其二 「ドーキンク種」

第三章 蕃殖

- 第一節 蕃殖用雌雄鶏の撰定法
 - 其一 雄鶏の撰定
 - 其二 雌鶏の撰定
 - 其三 良鶏蕃殖法
- 第二節 雌雄種鶏配偶の比率
 - 其一 雌雄鶏配合数の定め難き理由
- 第四章 孵卵法
 - 第一節 孵伏に適當の雌鶏
 - 第二節 孵化に供すべき卵の撰定
 - 第三節 母鶏に抱かしむべき卵數
 - 第四節 母鶏抱卵中卵の取扱法
 - 其一 抱卵中生卵及び死卵の検査法
 - 其二 孵化期に際しての注意
 - 第五節 卵の構造及び管理
 - 第六節 盲雛法
- 第五章 飼料

- 第一節 肥臘法
- 第二節 鶏の胃腸の構造
- 第三節 家禽の年齢を察知すると
- 〔附〕 鶉及び鶉鳥の老若を察知すると
- 第六章 吐糞雞
- 第七章 鶯
- 第八章 家禽一般の管理
 - 第一節 總説
 - 第二節 飼養
 - 第三節 濕氣は養鶏上に大害あり
 - 第四節 濕氣豫防法
 - 第五節 棲架の位置
 - 第六節 鶏の浴沙場
 - 第七節 鶏の放遊場のと
 - 第八節 食餌を給與する時の注意
 - 第九節 換羽期の注意

- 第九章 卵
 - 第一節 卵の成立
 - 第二節 孵化用卵運搬の包装
 - 第三節 卵の保存期
 - 第四節 卵の貯藏法
 - 第五節 卵の新古を檢する法
- 第十章 家禽の病的
 - 第一節 鶏の抱瘡病
 - 藥用治療法
 - 第二節 鶏の咽喉病
 - 藥用治療法
 - 第三節 羽虱撲滅法
 - 第四節 獸類の嚙み傷
 - 第五節 外傷
 - 第六節 眼中の傷
 - 第七節 羽毛を食する鶏

後編 藤井米八郎君著

目次

- 總論
- 家禽の沿革
- 養雞の目的
 - 一 家禽の專業
 - (イ) 養鶏と氣候風土
 - (ロ) 養鶏と地形及運搬の便否
 - (ハ) 養鶏と飼料の關係
 - (ニ) 養鶏と稼穡
 - 二 家禽の副業
 - 三 養雞の適地
 - (甲) 陸飼法
 - (乙) 水飼法

養雞業の遺利

- 一 鶏糞の利
- 二 鶏糞の効用
- 三 家禽の副産物

家禽の種類

- 一 産卵鶏の種類
- 二 肉用鶏の種類
- 三 肉用採卵兼用種類
- 四 鶯の種類

養雞年中行事

年中行事は一月より十二月に至る家禽管理細大漏さず叙述せり

實用養雞全書前編

杉田文三著

第一章 總論

抑養雞は農家の副業として世の開明と共に益々進歩せしむべきものにして漸次肉食の需用多き今日に於ては殊に其必要を來すべきや明なり然れども他の業務に於るか如く其目的とする處、確乎ならざれば到底其望みを達すると能はず忽ち失敗を蒙るものなれば之が安全の方法を立て各自の飼育せんとする目的に適當なる種類を撰擇すると必要なり

今洋雞に付て種類の特性を概言すれば都會の如き狹隘なる場處には「ブラマ」「ゴーチン」の種類を撰むべし然れども地面廣くして産卵を目的とすれば「レグホン」「ミノルカ」「ハンバーグ」等の如き活潑なる種類を採用すべし又需肉の目的なれば「ブ

リモースロツク」「ワイアアンドット」の如く大さ中等にして成長速かなるものを可
とす

右に述べたる種類は或米國の養雞家の説にして強ち悉く用うるを要せずと雖も此の
如く其種類の適否を考へて飼養すると肝要なり

又家禽を新に購入せんとする時は充分信用ある養雞家に就て系統の正良なる者を求
むべし決して些々たる價格の差異の爲に將來の不利を蒙むらざる様注意すべし

第二章 雞の種類

雞の種類は實に數多あれども之を大別すれば觀賞用雞、實用雞、闘雞の三種なり
左に實用雞中、産卵雞、食用雞に就て主なるもの數種を記す然れども固より其適當
なる種類を撰ぶは仲々困難なるにして従て各地方及び養雞家に依て各々異なれど
も左に世人の良雞と認めたる者に付て之を記す

第一節 産卵用雞

産卵用に適當なる雞は「ポーランド」「ミノルカ」「レグホン」「ブラマ」「ハンバーク」交
趾(即ち九斤の類)などを良種とす又總て雜種雌雞は能く産卵す

其一 「レグホン」種

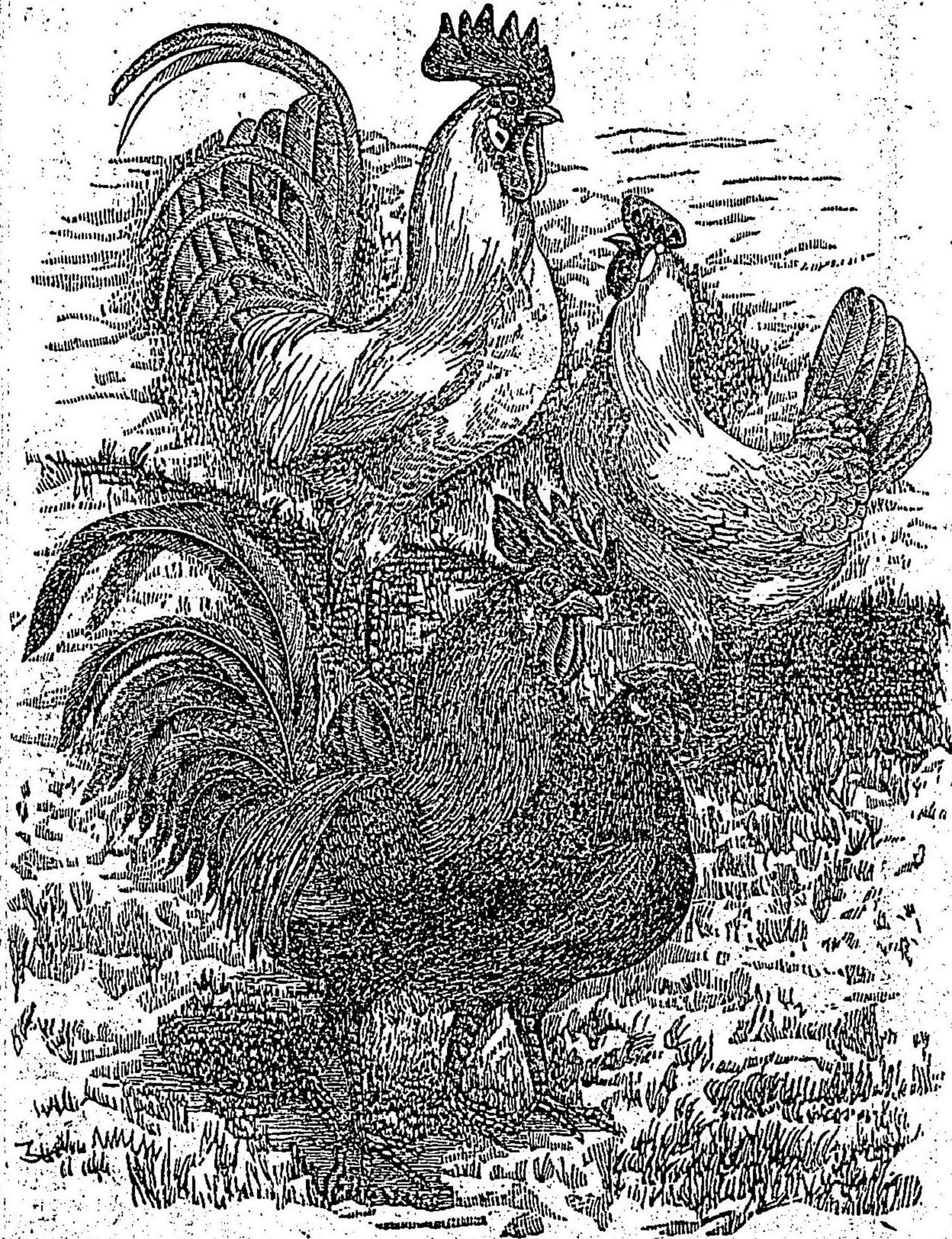
此の種は黑色を除くの外各般の色あれども白色種尤も優等にして産卵の數も多く冬
季中と雖ども休むとなし且つ其雌子は育養容易にして生長も亦早し頭上に大冠を戴
き其容止は尊大にして威儀あり

其二 「ポーランド」種

此の種は其性頗る強健にして産卵に斷續なきは他種雞の遠く及ばざる處なり故に産
卵用として第一に屈指せらるゝ良雞なり種々の色あれども銀色、金色、白色等を良
種とす頭上に毛冠を戴き亦觀賞用にも適す

其三 「ハンバーク」種

圖のレノホクレ
色褐は下 色白は上



五

此の種の特點は体格善良にして強壯なるが故に如何なる風土にも能く飼養するを得るにあり其色種々あれども金色、銀色種を美なりとす又黒色種も其光澤深く恰も金屬を見るが如し黒色種中に於ては此雞を尤も美なりとす卵は大ならずと雖ども其數多きを以て之が欠點を償ふに餘りあり

第二節 食用雞

食用雞の最良種は「ブラマ」「ドーキング」交趾を優等とす是等の種類は疾病に罹ると少なく且其生長至て速にして生れてより四ヶ月乃至六ヶ月間にして八百匁より一貫匁に至るの体量を有するものなり又之れに亞て「ドーキング」「ブラマ」の雜種雞も此目的に適す

其一 「ブラマ」種

食用雞としては家禽中此の種に優る者なきが如し故に廣く飼養せらる而して此の種に就ては大に注意すべき點あり元來此種は食食の性あるを以て氣儘に食餌を與ふる

四

ときは飽くとを知らず故に之れを防がざれば忽ち鬱悶の状を發し其結果竟に肥臘せざるのみならず産卵せざるに至るものなれば過食を避くると尤も必用なり此の如く注意して其飼養法に宜しきを得ば甚だ有益の種雞となり産卵の數も多からしむるを得て産卵用雞にも適するに至る

其二「ドーキング」種

此種は容易に肥膩せしむるを得ると早く産卵して其質佳なるは其特點とする處なり種々の色あれども白色種は尤も愛翫せらる而して此の種を畜育して利益を收めんと欲せば先長き良好の遊歩場を設け之れに粘土若くは礫土を敷き決して木牀或は磚牀の上に遊歩せしむ可らず斯く注意して飼養せし種雞は實に生育善良なるのみならず至て強健の雞となるなり

第三章 蕃殖

家禽の改良を謀るには蕃殖に注意する程其効の速かなる者なし然るに世の養雞家の多くは種類の異なる雞を同じ運動場に數種混交雜飼して其利益の少きを歎つ誤れるの甚だしき者ならずや是れ此業の收支相償はず改良進歩の緒を見ざる又謂あるなり宜しく充分に謹慎を加へて種類の衰頹を招かざるとに注意すべし今左に蕃殖種雞として飼育すべき模範雄雌雞の要點及び配偶の比例を摘記せん

第一節 蕃殖用雌雄雞の撰定法

其一 雄雞の撰定

- 一、純粹種雞たる標準と對照して一の非難すべき處なきもの
- 二、充分強健にして頭を高く保ち鋭敏活潑なる容貌を具へ音聲の嘹かなるもの
- 三、雞冠及び肉髯は鮮美にして胸部の濶く筋骨大なるもの
- 四、愛情深くして能く雌雞を保護するもの
- 五、放遊場に於ては一群を統一し夜間巢に歸る時は之れを集合せしむることを務む

るもの

其二 雌雞の撰定

- 一、雌雞撰定の基準も雄雞撰定の項目に適應すべき者を撰ぶは勿論殊に雌雞は性質温順、愛情の深き者たるべし
- 二、蕃殖の目的に適合せる種雞を撰ぶべし即ち産卵を望む者は同種類中に於ても殊に産卵の多き種類を撰定するが如し

其三 良雞蕃殖法

以上述べたる方法により完全なる雌雄雞を撰びて蕃殖を謀るは勿論なれども西洋諸家の經驗に依るに良雞は必ずしも最良雞を産すと云ひ難き場合多く其苗裔の感化は母雞に於けるよりも雄雞を多しとすと云へり故に良雞を求めんとせば宜しく雄雞の撰擇に重きを置くべし而して又左の如き蕃殖法を施せば多くは良雞を生ずと云へり

- 一、一歳雄雞を二歳雌雞に配偶したる者より産したる卵は常に最も良雞を生ず
 - 二、一歳雄雞に配偶したる雌雞の卵よりは多く雄雞を産す
 - 三、一歳雌雞に適當の雄雞を配偶せし者の産みたる卵は雌雄相半ばす
- 右に述べたる諸點を彼是斟酌して益々改良蕃殖を施せば良雞を求むる難きにあらざるべし

第二節 雌雄種雞配偶の比率

雌雄配偶の比率は種類によりて各々異なれども左に其大畧を記す

- 「アラマ」種及び「スパニッシュ」種 一雄十二雌
- 「ハンバーク」種及び「レグホン」種 一雄十四雌
- 「ドーキング」種及び「ウーダン」種 一雄十雌
- 「ポーランド」種及び「闘雞種」種 一雄十二雌
- 「交趾」種即ち本邦九斤の類 二雄廿四雌

右の如く配偶の適當を得れば完全の産卵を得、従て玉子を新撰に永保するを得るのみならず是等十二顆の卵を孵化せしむれば寡くとも十一顆の雛を生産せしむ

其二 雌雄雞配合數の定め難き理由

前に述べたる雌雄配偶の比率は泰西養雞家及び普通世人の是認せられたるものを彼是折衷して相配したるものなれども是等配合の數たる之を定むると甚だ困難なり何となれば之には種々の關係ありて一定せざればなり今左に參考の爲め其關係の要點を述べし

第一 季節

早春の季にありては未だ冬季の衰弱充分回復せざるを以て從て此の時季に於ては配偶すべき雌雞の數を寡くして可なり

第三 年齢の如何

雌雞の年齢若く、精力強盛なるが如きは配偶すべき雌雞の數を多くし之に反して二三年を経たる老雞は雌雞の數を減ぜざる可らず

第三 養雞場の廣狹

養雞場狹隘なれば從て雌雞の數を減じ廣ければ廣き程其數を増して可なり

第四 種類及び各雌雞の特別なる性質

種類の如何によりて配偶數の異なるは上に記したるが如し次に雄雞の特別なる性質即ち前に述べたる模範雄雞の有様を完備せむものは割合に雌雞の多數に配偶して可なる者なり

右の外種々の關係を有すれども之を要するに雌雞配偶の數は到底之れを定むると能はざる者にして單に比率の概略に止まるのみ其尤も適當なる割合を計るは卵子の孵化力を實驗して定むるを良法とす然れども上に記したる比率は一般世人の適當なる數と是認せし者なれば右に依ること肝要なれ

第四章 孵卵法

卵を孵化せしむるに自然法即ち雌雞に抱かしむる者と人工法即ち孵化器に入れて適温を與へ人工を以て孵化せしむるの二法あれども後者の如きは完全の器械を用ひ熟練の効を要す前者は之に反して最も安全にして最も行ひ易き方法なり依て左に自然法に就て之を説かん

第一節 孵伏に適當の雌雞

孵伏用雌雞を撰ぶには左の諸點に就て注意すると肝要なり

- 一、性質温良にして慈愛心深く懇切に雛を育て能く之を保護するもの
- 二、巢に就くの念、深くして抱卵中餘り遊びに出でざるもの
- 三、多く抱かしむるには軀軀大にして毛羽の濃き種類を撰ぶべきと然れども餘り大なるものは巢に就きて身軀自由ならざる爲め時々卵を損するとあれば可成軀の輕き者より撰むべきと

四、巢雞に適當の種類は交趾(即ち本邦九斤の類)及び關雞種を最も良とす

五、巢雞は一度雛を養育せし經驗あるものを撰ぶべし

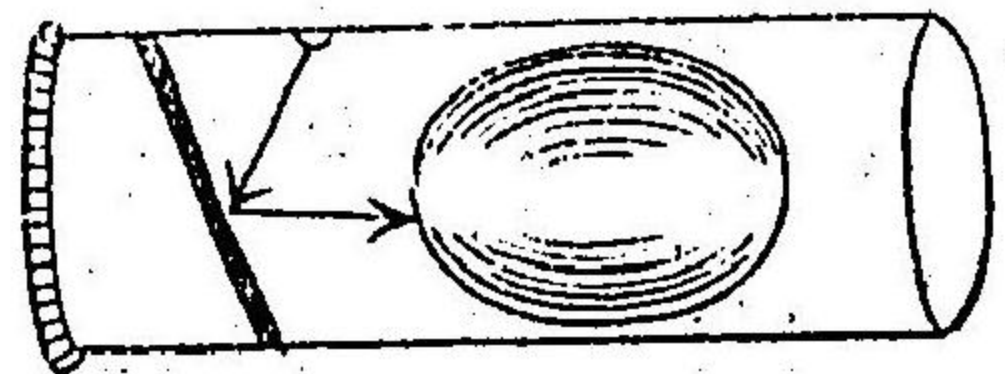
第二節 孵化に供すべき卵の撰定

孵化結果の善惡は卵の性質の善惡に大なる關係を有する者なれば尤も注意して之れを撰ぶと必要なり

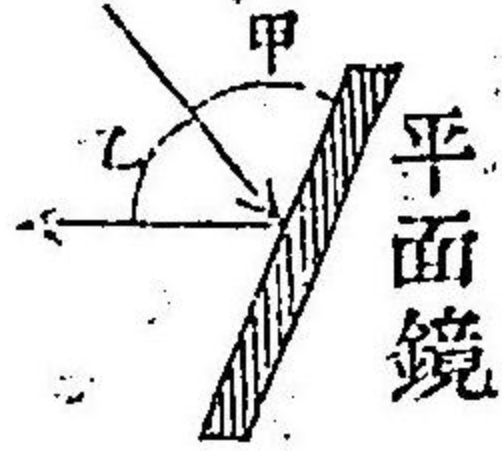
之を行ふには先づ第一に其新鮮なるや否やを驗すべし之れを爲すに尤も適當なる法は暗き處に於て蠟燭或は洋燈を點じ眼と燭火の間に卵を置き透視して之れを撰別するを宜しとす此の理に基き余は一の拙なき簡單なる器を案出せり左に記して讀者の参考に供す

左圖の如く節の尤も長き竹を取り其大きは普通卵を自由に出入し得る程の者一節を切り切斷圖の如く節に近き部より斜に鋸にて少しく切り込み此に通常の鏡の如く裏に水銀或は黒紙を附着せし者を差し込み其周圍の隙間は黒紙を以て光線の透入せざる様なし置き然る後、矢にて圖示せる如く光線の平面鏡へ進入し竹筒の中央を通

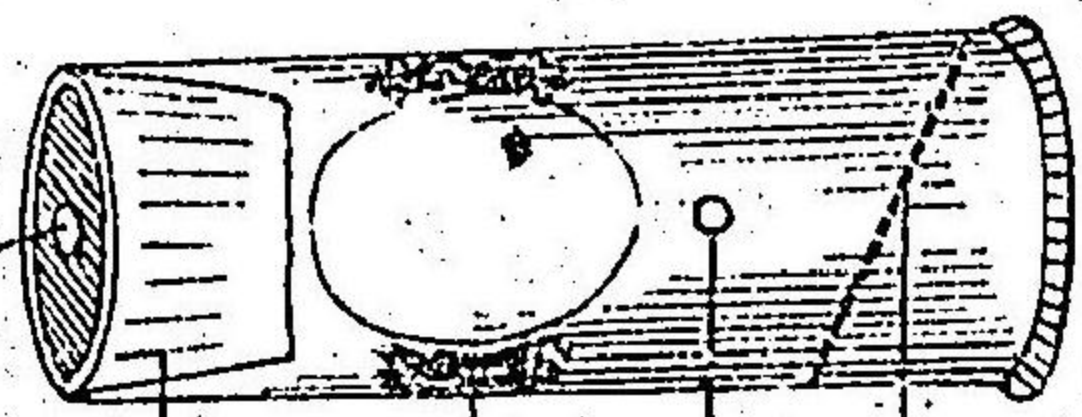
切 斷 圖



甲ハ光線ノ方向
乙ハ其ノ角度



外 面 圖



平面鏡
光線ノ入ルヘキ孔
光線ヲ遮ル爲メニ置ケ
黒羅紗
木ノ栓
眼ヲ當テ透シ見ル孔

りて反射する様
上部に一小孔を
穿つべし之れを
穿つにも鏡に向
て斜に開くるを
長とす斯くして
檢せんとする卵

を圖の如く中間に置き口部には餘り大口にして眼を當つるに不便と外より光線進入して充分に檢すると能はざるが故に下圖の如く此に木栓を施し中央に一小孔を穿ち此より透視せば明瞭に判別するを得べし若し檢せんとする卵小にして工合宜しからざれば其周圍に黒羅紗を當てて行へば尤も妙なり然る時は卵の動かざるのみならず光線の逃出を防ぐとを得

又單に下部なる節の中央に一小孔を穿ち是れより光線を通して檢するも良し右の方法によりて檢査し不透明なるものは到底孵化用に適せざる卵なれども亦次に記したるが如き場合の産卵も多くは孵化用に適せざるものと知るべし

- 一、生活力の不充十分なるもの即ち不完全卵
- 二、雌雄兩雞の未だ幼き時産みたる卵
- 三、餘り肥臙せる雞の産みたる卵
- 四、嚴寒に觸れたる卵
- 五、屢々人手に觸れたる卵
- 六、抱かしむる迄久しき日數を経たるもの

右は何れも孵化力に乏しきものと知るべし而して卵を取扱ふに寒きは暑きより害少なし西洋の有名なる養雞家の説に華氏氷點以下十五度の處にある卵より八十度以上の場處にある卵の方害少しと云へり而して卵子を貯ふるに尤も適當なる温度は四十

度乃至五十度にして之れを取扱ふには俄に卵を振搖せしめざるを要す又卵を置くには大端を下部とし動かざる様粉粟糠などの内に貯へ置くを可とす斯すれば生活力の減ずる愛なし精しきとは下に述ぶ。

第三節 母雞に抱かしむべき卵數

母雞に抱かしむる卵數は母雞及卵の大小、巧拙、氣候の如何等種々の關係ありて之を定むるとの難きは云ふ迄もなきとなれども左の諸點に就て彼是斟酌實行せば充分効を奏するとを得べし

- 一、氣候に就て斟酌すべきと即ち夏季十顆抱かしめたる雞なれば春季は七顆位に減ずるが如し
- 二、母雞の毛羽深くして濃き種類なれば之れに反する薄きものより一二顆を増すべきと
- 三、母雞の大小に依て各々異なるは勿論なれども通常の大さなれば先づ八顆より

十顆位抱かしむべし

四、母雞の躰大なる「ブラマ」「ドーキング」種及是等雜種雞にありても十一顆を超しむべからず

第四節 母雞抱卵中卵の取扱法

各養雞家共種々の方法を施し中には随分叮嚀の手當をなす者あれども此の事たる熟練を要せざれば反て卵を害する者なれば適當なる種類の中にて母雞を撰出し之に一任するの優れるに加かず然れども洋雞の良種に至ては最早人意を以て改良に改良を加へし善良雞なれば放任主義を行ふては到底満足の孵化を擧ると能はざる者なれば参考の爲め左に抱卵中の注意を記す

先づ母雞に抱かせて後四五日間目より時々卵を反覆して彼是場處を取替ゆべし之れ一様に温度を受けしめ孵化をして一齊ならしめんが爲めなり尤も熟練せる母雞は常に自ら此の如くなせども亦時々此に注意すべし又抱かせてより七八日を経ば反覆の

際卵子を能く檢し其孵化せざる者は之を取除け他の完全なる卵に充分の温氣を受けしむる様なすべし之れを施すには左の方法に依るべし

其一 抱卵中生卵及び死卵の検査法

一、卵を採り之を微温湯中に浸し静かに之を檢すべし其浮上する者は孵化するものにして沈下するものは孵化せざるものなり

二、卵を平なる玻璃板上に安置して之を熟視すべし孵化すべきものは時々動くを認めれども孵化せざるものは動かず

三、卵を手に握り光線を透過して検査すべし孵化せざるものは透明なり

四、孵化力を有する者は卵の頂上に近き處の一小部分を除くの外全胚暗黒なり

其二 孵化期に際しての注意

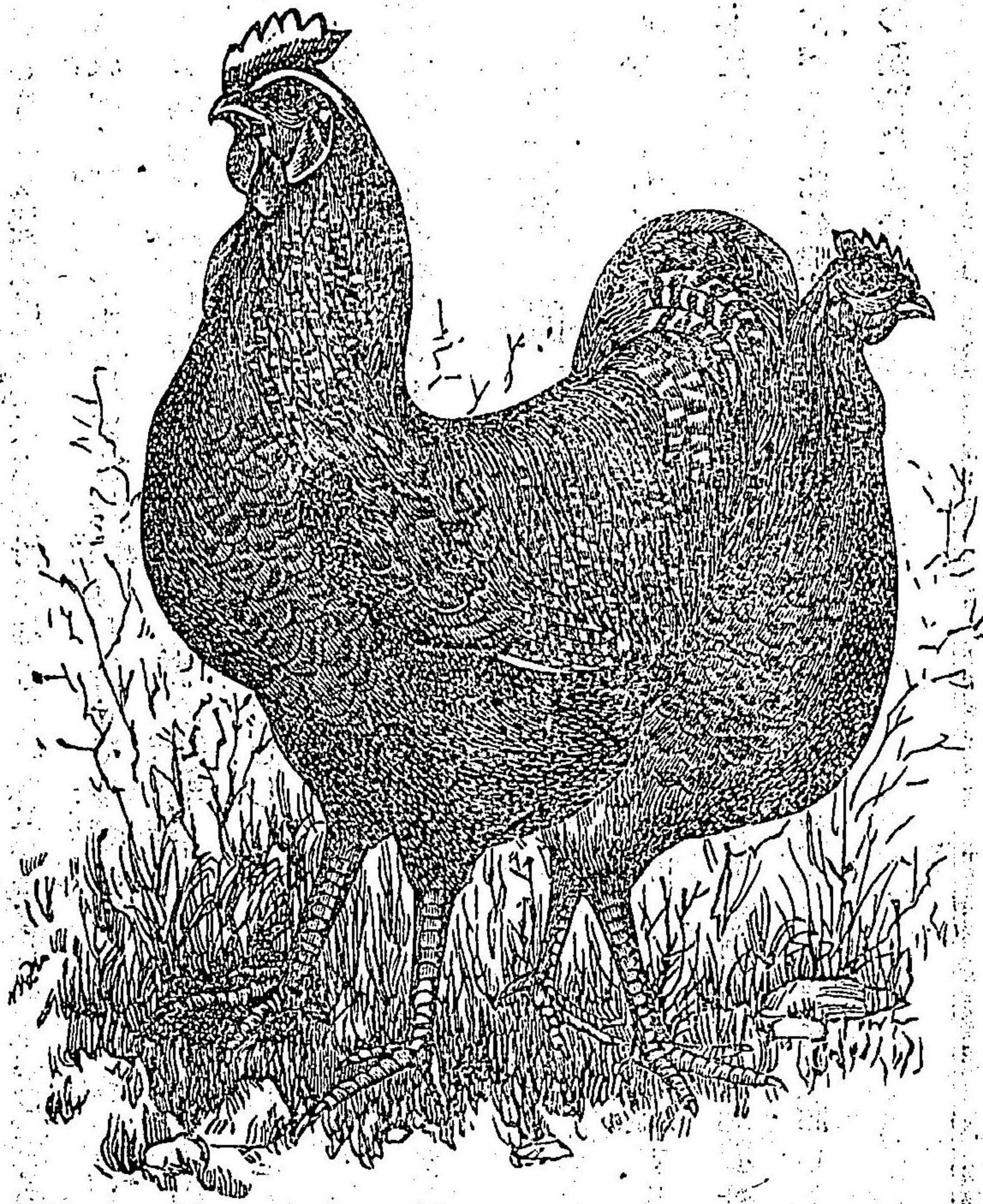
斯くて健全なる卵子は抱かせて後二十日乃至二十一日を経過せば殻内に於て微聲を發し強壯の者は容易に殻を破りて出づ然ども二十一日後に出でたる雛は恐くは虚弱

の雛なり若し孵化の際卵殻破砕せずして雛の出ると能はざるが如き時は其大端を上方に向け安置すべし然る時は自ら破れ出づる者なり然れども是にても能はざれば止むを得ざるを以て人手にて叮嚀に破るべし之れを行ふには微温湯中に於てすべし此の如く破砕の際困難を來す原因は外殻の乾燥に過ぎ水分の乏しきより容易に破れざるに依る者多きが故に前に述たる如く時々微温湯に浸し水分を與ふると尤も必要なり是とも巧みなる母雞は外出の際、羽に水分を附着せしめ巢に歸りて之を卵に與ふるものなり此の如きを以て孵化を施すべき卵の巢を設くるには充分注意し高處にして乾燥速かなる場處は第一に之れを避けざる可らず

第五節 巢の構造及び管理

孵卵を行ふ巢を設くるには場所を撰ぶと尤も必要なり即ち母雞の巢に就くや己れの方の有ん限りは孵卵の念慮深くして恰も狂氣せし者の如く他物の妨害を受くれば是に敵對せんとする者なり此の如きを以て抱卵中他の事に心を奪はれざる様猫犬其他

ブーモリ一スロツクの圖



獸類の目に觸れざる場處に設くべし又巢は高き場處を避け低き場處を撰定すべし之れ巢雞の働き自由なると水分を卵子に與ふるの便あるを以て卵を損ずると少きの利あり而して孵化に近づくや、成るべく外出せしめざる様爲置き時々水及び食餌を巢雞の傍に持行き食する丈け之を與へ然る後食器は直に外に持出すべし

第六節 育雛法

孵化期滿つるも雛は一齊に産出するものに非れば其産出の順に従がひ母雞より取り去り温暖なる室に入れ置き産出全く終る迄は人意を以て暖かなる器内に於て充分保護し置くべし之れをなすには手輕の箱を取り此の内に古き毛氈又は綿の如き者を澤山に入れたるを良とす是れ母雞は雛産出の際立働きに忙はしきが爲め雛を踏付け之れを傷くるの恐あるが故なり又雛は生てより凡そ廿四時間位は食を與へざるも敢て差支なき者なるに由斯て全く母雞の仕事終らば是等雛子を托すべし而して直ちに與へべき食餌は勉めて消化し易きもの則ち淪卵を細碎したるものか或は麵麩の細片を

牛乳に浸せしもの又穀類は麥粥及び麥粉の如きものを尤も宜しとす又是等の食物を與ふるにも成べく不規則に流れざる様注意し併せて少量の水を時々與ふべし然れども水分の多き食物を與へし時は必要なし斯て雛の毳毛全備せば自由に日中の温熱を受けしむべし故に天氣快晴の折は母雞と共に外出せしむるを良とす然れども朝露の未だ乾かざる間は決して放遊せしむ可らず病雞の源因多くは之れに基く者なり又夕景は日没前に必ず雞舎に入るゝと肝要なり

第五章 飼料

家禽の飼料品は何れの種類に拘らず只其筋肉、骨及び脂肪の三者を構成するに尤も必要なる善良の食物を與へて之れを養ふを要す故に佳良の穀類を以て飼養せば必ず良効を奏すべきは此に喋々するを俟ずして普く世人の熟知せる處なり而して歐洲にては家禽の飼料に主に

大麥 を以てす併し是のみを以てせば一時其發育著しかるべしと雖ども到底肥

満を期すべからず又

燕麥 は其滋養分大麥に比すれば少しく下れりと雖ども之を家禽に與へ適宜に喰

ましむれば産卵に良効あり

蕎麥 は之れを雞に與ふれば産卵を速かならしむるの効あり但し其殻皮を去るを

要す

麻の實 は獨り産卵に良効あるのみならず又強健ならしむるの効力あれば冬期又は

換羽の季節に際して必ず與ふべき良飼料なり

博覽會其他公衆の觀覽所へ出品せんとする雞は麻の實の如き脂質の多量を含むせ

る食物を與ふべし然る時は脂肪分の分泌を増すを以て其羽毛に光澤を添へ

美觀を呈するものなり

柔軟なる飼料 は充分に調和して與ふべし然らざれば雞は之を喰はざるとあり

今其柔軟飼料の調和法を記さん玉蜀黍の粉と良糖を等分に混和し之れに熱湯を加へ搗て團塊となし與ふべし其塊の適度は之れを地上に投付け其破碎する程を好適度とす又能く洗ひたる馬鈴薯を煮て之れと同量の玉蜀黍粉末を混ぜ能く搗き雜せて與ふべし

右の外家禽には

青緑飼料 即ち菜、蕪菁の類、甘藍、萵苣、玉葱の如き飼料を與ふることを怠るべから

ず而して之を與ふるには毎週一二回とし多量と與ふるよりは寧ろ日々少量を與ふるの勝れるに如かず

又卵殻の堅固ならんとを欲せば石灰質の食料を與ふべし即ち骨粉、石灰、卵の殻若くは貝殻の粉末は此目的に適す之れを食餌の内に混與ふべし

又冬季雞の出類を喰ふ能はざる季節に至らば少量の肉片を喰はしむべし然れども肉類を與ふるには之れを焼き粉末とするか或は乾したる者を與ふべし何となれば生肉

は羽毛の脱却を來すのみならず其子孫をして不良ならしむると多ければなり然れども二三の養雞家は雄雞を飼ふに生肉を與ふれば其性質自から争鬪を好むに至るとて鬪雞には多く生肉を與ふるものあり

第一節 肥溷法

家禽を肥溷せしむるには餌料の善惡に依るは勿論なれども之れを雞舎内に閉置せしめて肥溷を計るには又自ら方法あるなり其法種々ありて各々同じからざれども尤も速効あるは煮たる食物を全く放冷せしめざる内に與るを簡便とす其原料には大麥の粉と玉蜀黍の粉とを等分に混和し硬く煮て與ふるなり斯かる食餌を以て飼養したる雞の肉は然かも柔軟に失せず佳味を有す

又飲料水中に磚粉(即ち煉瓦或は瓦などの粉末、小石などの如きもの)少許を投じ然る後大麥の粉を與ふれば食慾を増し忽ち其効を顯はすものなり

又放遊場に飼養する雞も之れを屠殺する前には少くとも十日間以前より自由漫歩を

禁止肥臘を促がすべき食餌を與ふべし若し然らずして恣まに放飼する時は汚穢物を拾食し爲に善良なる雞肉も惡臭を帶び食膳より斥ぞけらるゝとあればなり
 又肉食用飼雞には割勢法を行ふとあり此の法は専ら以太利、佛蘭西等の諸國に於て盛に行はるゝ處の者なれども本邦にては此の法の實施は餘り聞かざる處なり而して割勢法を行ふには雞を縛り躰の働き自由ならざる様になし之れを臺の上に置き左の側を下にし翅及脚を嚴しく抑へ鋭き小刀を以て一層の注意を加へ内臓を損傷せざる様其腰部を切り開き脊骨に沿ふて存在する處の翠丸を抜き之れを斷ち切るなり之をなす雞の適當なる年齢は生れてより二三ヶ月位を経る幼雞に施すを宜しとす老雞は施術に堪ゆる能はずして多くは死するものなれば行はざるを可とす斯くして完全の施術を受けたるものは軀體の肥滿甚だ速にして其肉の味も亦美に且つ性質は恰も唯雞の如く極めて温和なる者となる

第二節 雞の胃の構造

雞の胃腑は砂囊と云ふ意味の如く食物と共に小砂粒を吞込み此の働きに依て食物を消化するに便する者なり故に其構造他の動物と大に異なる處あり即ち胃の内面には強硬なる皺あつて食物之れに觸れて消化し得らるゝと恰も石臼の目に於けるが如し加之吞込みたる砂礫は食物と互に磨り合ひつゝ此の皺に觸れて消化を全ふする者なり右の如くなるを以て屠殺の際は之を解剖して胃の構造に就て注視せよ之を組織せる筋肉は最も強く且つ厚くして以上の働きに適應するを察知し得べし
 右に述べたるが如く雞は砂礫を胃中に貯ふる必用ある者なれば放遊場に飼養せらるゝ時は隨意に之れを喰ふと雖ども飼養舎内に閉飼せらるゝ雞は意に應じて求め難き場合などありて之れが爲に肥臘の効を見ざる者寡からざるの結果を生ずるとあれば宜しく此點に注意して斯かる境遇にある雞には食物と共に時々少量の砂礫を混じて與ふるを要す然らざれば大に家禽の健康を害す前項に於て磚粉を與ふるとは即ち此の目的より出たる者にして必竟消化を促がすの方便に過ぎ

第三節 家禽の年齢を察知すると

生きたる家禽の年齢を察知するは容易なれども既に羽毛を脱して將に刃を加へんとする者の年齢を見分るは至難なり故に此の事に暗き者は往々奸商の爲に欺かれ老雞にして殆んど取る處なき不良品を反て高價に購求し大に損耗を蒙むるとあれば左に之が鑑識法を記して聊讀者の参考に供せんとす

一、距及び口嘴の硬強なるものは老雞なり

二、肉冠の厚くして粗糙なるものは老雞なり

三、脚鱗の粗硬にして滑かならざるは老雞なり

右の諸點に注意し肉冠は鮮紅色にして薄く、距及び脚鱗、爪等は軟かにして且滑かなる者を撰べば決して老雞を買ふの失策なし

〔附〕 鶯及鶯鳥の老若を察知すると

之を鑑識するには其兩翼の下に於ける皮膚を撿すべし皮の柔軟なる者は若齡なり又

脚節の強固なるも若齡の證なり

第六章 吐綬雞

此の種は自ら卵子を孵化すと雖ども其性質甚だ亂暴なるを以て是に放任すると頗危険なり故に他雞の適當なるものを撰びて之れに托するを良とす孵化期は三十日より三十二日間を要す此の種の雞子は極て薄弱なるを以て少しく不注意の管理を施せば忽ち斃るゝ者なり故に其孵化するや雛の軀乾くを待て直に之を育雛箱に入れて飼養すると尤も肝要なり箱内には綿若くは「フランネル」の如き暖かなる者を敷き此の上

に右の厄期及此際注意すべき要項を記す

第一の秘法 是れは寒熱及び濕潤の變動に觸しめざると及び適當の飼料を適量に

給するにあり

就中濕氣は尤も禁物とすべき者なれば冷雨は勿論朝夕の露氣にだも觸しむべからず
右は常に充分の注意を加へず時も怠るべからざると次は厄期にて即ち左の如し

第一の厄期 は孵化してより三日目の頃にあり

第二の厄期 は夫より凡そ六週間餘り経過して頭部の赤色を呈する頃なり

右の厄期に際し専心注意して飼養法に手を盡さざるべからず萬一此の厄期に當り手
當の行き届かざる時は十中の八九は必ず倒死に陥るものなり

厄期の際は又充分食物に周密なる注意を加ふべし而して該期中は稍々刺激性の飼料
を與ふるを宜しとす即ち麻の實の碎きたるもの及び少許の辛味などを小麦粉或は卵
子などに混ぜ之れを與ふべし又肉類を少量つゝ與ふるも良し又青菜の類も時々與へ

ざるべからず之を與ふるには菜を細く刻み大小麥粉などに混合すべし又嚴寒の候に
は混食を調理するに熱湯若くは暖かき「ソップ」の如きものを以てし其冷却せざる内
に給與するを良とす而して常に清水を與ふることを怠るべからず然ども此際尤も注
意すべきは一度に多量の飲料を與へざると之なり是れ雛の誤りて水を糞り其軀を濕
潤せしむるの憂あるが爲なり故に少量つゝを時々與へ雛の呑み終るを待ちて直に之
れを取り去るべし此の如きを以て雨天或は朝夕とも必ず室外に出す可からず斯くし
て六週日若くは二ヶ月を経たる者は實に強壯にして他種雛の比にあらす故に之れよ
り後は充分食餌を給與して肥體を謀るべし決して之が爲に病疾に罹るなどの患更に
なし

第七章 鴛

鴛を飼養して得る處の利益の多寡は實に飼養地の適否にあるものなり之れ此の鳥は

實に食を食するの性熾なるを以て餌料を一切給與して飼育を計るべき適當種に非れはなり故に池、湖、河等天然の地理宜しからざる場處に於て之れを飼養せば如何程其方法を盡すとも到底收利を期し難し宜しく第一に飼養場の適否を考へて然る後に行ふべし此鳥は恣まゝに放飼せば遠く遊びて歸ることを知らず又處を擇ばず卵を産捨るものなれば飼養舎を設けて此に放遊せしめ時機を謀らひて折々舎外に遊歩せしむべし

此の種は卵を孵化するを知らざるが故に通常牝雞に孵化せしむ其期日は二十八日位を要す餌料は雌の間は蕎麥、及び大小麥粉を軟かに水に溶きたるもの或は煮たる馬鈴薯の内に青菜を細かに刻みたる者を雜て與ふべし又全く成長したる後は玉蜀黍粉及び馬鈴薯の煮たるものを搗混ぜ與ふる時は産卵を増すの効あり

第八章 家禽一般の管理

第一節 總説

家禽飼食は充分熟考して以て諸事の整備を謀らざるべからず否れば豫想外の大失敗を蒙り所謂骨折損と爲るとあり今左に飼養者の心得となるべき箇條を逐次題目を掲げて畧記せんとす

既に前章に述べたる如く家禽は農家の副産物にして數羽一群の雞を飼養する時は之れが爲め敢て餌食を要せず剩餘の穀類に依て絶へず多少の收益あれども若し數十羽若くは數百羽を飼養するが如き場合に於ては一群として飼養すると能はず勢ひ其羽數の多少に準じて飼養舎の廣狹は勿論棚などを設け區劃をなさざる可らず然らざれば之が爲め反て損耗を蒙むるとあり之を要するに數羽を一群として養ふ時は其收益は微々たれども遂には大なる者なれば若し之より増加し數十羽に及ぶ時は羽數を増すに従て收支得失の點に於ては反て逆比例をなすものなり是其食餌の經濟飼養舎の管理其當を得ると否らざるに依て大なる關係を及ぼす者なればなり宛に角何れの

區劃法をなすを問はず左の條件は養雞上甚だ必要なると信ずれば成るべく贅言の解説を省き簡單を主とし勉めて緊要なる事項のみを記述せん

第二節 飼養舎のこと

飼養舎は高燥にして空氣の流通能く濕氣を受ざる處を擇ぶと尤も必要なり此の如き場處なれば夏季は自然涼しく冬季は温暖なる者なれば新に設けんとせば成るべく斯る場處を擇むべし然れども都邑の地にありては到底斯かる都合能き場處は得られざる者なれば勢ひ不適當なる處と知りつゝも片苦しき一隅に設けざるを得ざるは止むを能はざる次第なるが斯る養雞者は

注意なる念慮を片時も忘却せず

時季の變遷に應じて充分の手段を施し飼養舎をして以上の如き好飼養舎と爲すに遅々する勿れ蓋し養雞家の仕事を爲すには

迅速と完備を要し

爲し得へきとは直に之れを行ひ決して猶豫すべからず

第三節 濕氣は養雞上に大害あり

濕氣の動物に大害あるとは讀者の夙に明知せらるゝ處なり今之を吾々人類に例ふるも夜氣を吸收せば所謂寢冷への爲め風邪病などを起し或は夜中旅行の害及び梅雨中病人の多きと又窪地にて濕氣深き場處は脚氣病、「リヤウマチス」或は其外の病氣多きが如く是等の點より考ふるも殊に雛雞飼育の際は其害の及ぶ處大なれば充分豫防法を施すべし而して空氣に濕氣多きときは彼の有害なる「バクテリア」蕃殖すると常時より數多にして其の害最も多し加之雞糞は外圍の空氣乾燥せざる間は何時迄も乾かずして爲に惡臭を放つと益々甚だしく且永きが故に食物は勿論器具に至る迄汚穢となり微を生じ或は腐敗し或は微小蟲を生じ雞は是が臭氣を呼吸して不健康を來すのみならず勢ひ寄生蟲即ち虱などを生じ益々衰弱するに至るべし。

第四節 濕氣豫防法

養雞舎内に用ひたる敷藁は時々之を取替へ其都度舎内を成るべく清潔に掃除し能く乾燥せる小砂利及び石灰粉末の少量を散布するを宜とす梅雨中などの如き濕氣の殊に甚だしき時は時々舎内に於て硫黄を燃すを宜しとす是れ動物に甚だ有害なる汚穢の分子を含有する不淨濕氣を放散せしめ并に彼の恐るべき「バクテリア」及び微小寄生蟲の蕃殖を防禦するの効あれば適度に行ふを可とす而して尤も勉むべきは舎内の砂壤土をして常に乾燥を保たしむべきと之なり

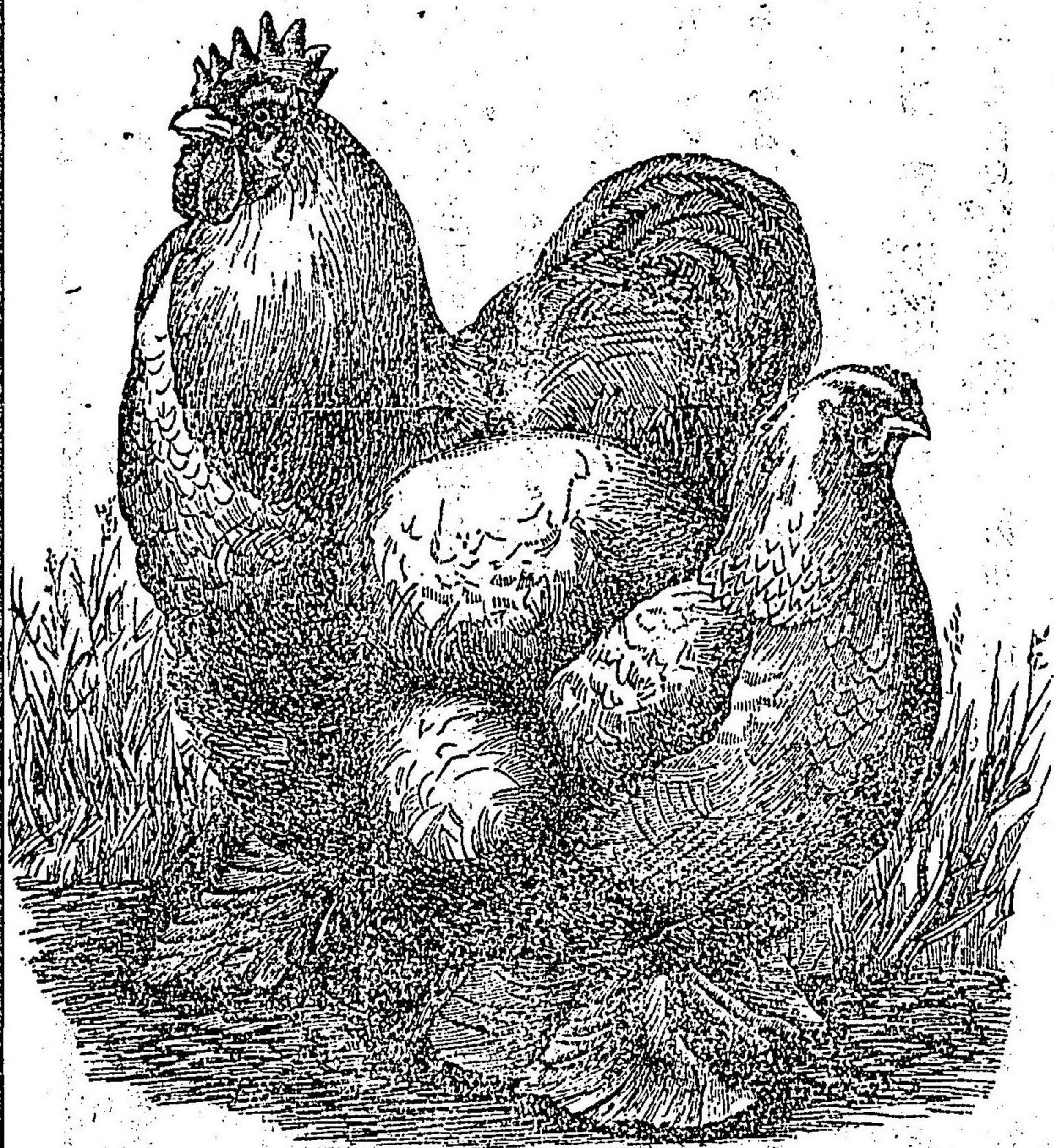
第五節 棲架の位置

飼育舎内の棲架の位置は土地と氣候と飼養家の如何によりて皆幾分か其趣きを異にすれども雞の性質より云ふ時は雞は最高の棲架を最も安全なる場處と思ひ低き位置の棲架程之を嫌ふの天性あるものゝ如し養雞家は常に見らるゝならん階段狀の棲架を彼に與ふれば雞は各自高處に行かんとして相互ひに争ふものなり又斜線の棲架に於けるも此の如きとを見るならん故に棲架は水平に排置するを尤も可とす而して其

高さは地面より三尺以上となすべし若し餘り低き時は呼吸に依りて生ずる有毒炭酸瓦斯(重き故下部にあり)及び棲架の下部なる糞等より發生する惡臭の害を蒙り易く之が爲め大害を蒙むるとあり又棲架に用ゆる材木は餘り細き棒又は狭き板に失す可らず此の如きときは雞は安全に體を支ふるを氣遣ひ胸骨を以て全體の重みを支ふるの必要を生し從て窮屈の思ひをなさしむ之を人に例せば不完全なる腰掛に坐らしめ或は狭き臺に昇らしめたるが如し誰れ人も心地好き思ひせざらん是等は實に些細の件なれども少しく意を用ゆるときは左程手敷を要せずして事辦すれば成べく雞の好む方法を取りたきものなり其棲架の巾は二寸より狭からざるを可とす彼の小枝、桶の縁などに棲らしむるは固より不可なり殊に軀體の大なる洋鶏などにありては甚だ惡し

第六節 雞の浴沙場

家禽の浴沙場とは雞の自身乾きたる軒下などの沙地或は輕鬆細粉土の場處を擇び是



等土中に己れの軀を沈め而して小砂利或は粉土を掻き起して自軀全身に之れを浴び
羽毛の間を洗ふを云ふ雞の好んで之を爲すは一の必要あるを以てなり即ち雞は之を
行ふて虱を驅除し以て羽毛の間を清潔に洗はんが爲めなり而して此の浴沙場を與ふ
るは雛を孵化せしめたるときに在りては殊に必要欠く可らざるものなり親鳥は永日
卵子を懐き之のみに身を委ね他事を顧みず常に一處に座し居るものなれば此の際に
當りては人工を以て充分の手當を施すに非されば多少虱の寄生を蒙むるものなり斯
かる時は遂に之を雛に迄傳染せしむるものなり
虱は敢て智識を有するものには非されども自然老ひたる親鳥を嫌ひ雛の富膩なる温
血を好んで食すべきを知れり故に斯る時は必ず孵化せざる以前より舎内に浴沙場を
設け置を可とす之を作るには前に述べたるか如く雞自身の好んで求むる處の者の如
く能く乾燥せる輕鬆土或は小砂利雜りの土を以てすべし若し場内に於て是等の適當
なる土無きときは他より適當の土を取り來りて之を造り與ふべし

第七節 雞の放遊場

廣潤なる庭園或は竹藪などを有する農家などに於ては一群位の家禽を飼養するも之か爲め別に放遊場を設くるの必要なしと雖ども充分の空園なき農家或は都邑などの地に於ては放飼するよりも寧ろ一ツの放遊場を設け置き此の内に養ふを利ありとす最早十羽以上を越ゆる時は随分作物を荒し殊に人手少なき農家に於ては之れが害を蒙むると甚しく放遊場を設くるの優れるに加かざるなり而して放遊場も飼養舎の注意と全しく冬季は勿論春秋の候などは風の防禦をなすと肝要なり殊に寒冷なる季節には霜柱の立たざる様庇蔭の計畫を施すべし冬は寒氣に曝し夏は炎天に置くが如きは家禽の利益愛翫共に放棄したるものゝ所置なり望むらくは其欄内に於て好所の一隅に木灰、砂或は塵埃等を敷き其上に屋根を設け雨雪を防ぎ家雞をして茲に食を求めしむるを可とす又一小部分には菜「ハコメ」草其他の青草を時季に應じて蒔付べし此の如くせば手数を要せざるのみならず食餌の經濟上大に宜しからん

第八節 食餌を給與するときの注意

不注意なる人は毎年度數も定めず又其分量をも定めず甚だしきは日に一度位少しく多量を與へて顧みざる者あり此の法は怠惰にして無頓着なるものゝ爲す處にして甚た有害なり成べく日々一定の時刻を定めて與ふべし又清水は健康上須要の者なれば充分之を備へ置くべし時間近くして餘りに多量の食物を與ふる習慣は甚だ悪し又食物を與ふるの際底の深き器物に入れ或は一處に堆積して與ふるなどは甚だ宜しからず何となれば彼等の如きは食慾殊に非常なるものなれば少しく饑渴を感ぜしめたる後食餌を與ふるときは各自相争ふて多量を得んとし強者は弱者を壓倒して其食を恣まゝにするを以て自然成長の不整を來すの原因となる加之胃部を充たすの度急速に過ぎて消化力を鈍くし不活潑に陥らしめ多少食餌の損失を生ずべく亦之れが爲め往々病を引起すとあり故に成るべく此の點に注意し雜穀類などを與ふるときは器物を用ゐず（用ゆる時は底の面廣き器具を要す）勉めて地上に撒布して與ふへし然るに

世間間々食餌の冗費を恐れて所謂一文惜みの百損を蒙むることあり農家などは大概暗々裏に此の撒布飼與法を實施するものあれども都會などの狹隘なる場處に飼養するものは多くは器物を用ゆる様見受らるれば成るべく前の害を避くべし之を要するに家禽は飽まで食せしむれば甚だ宜しからず常に快活にして食後尙ほ餌食を要求するの意ある程度を適量となすべし斯くして食餌の甚だしき過不及を告ざる様注意して飼養せば常に健康にして能く産卵す

今試に食餌上の損失に就て其理由を略述せんに茲に一人の養雞家あり食餌の如きは日々刻限を定めて懇切に取扱へども常に儉約を主とし甚だしく少量の食餌を給與するとせんか斯る雞は漸く生活力を維持せしむるのみに止まり何程食を費すとも到底肥滿産卵を促すに足らず益々衰弱を來すものなり殊に成長の盛なる雞にありては忽ち其影響を及ぼす者なり

去とて餘り多量に與へ加之滋養成分に富める肉食などは成長期の雞には兎も角産卵

第九節 換羽期の注意

用又は蕃殖用の雞には矢張前述の如き愛ふべき影響を來すものなれば種々斟酌して臨機の扱ひを施すこそ肝要なれ

雞の此の期に際するや殆んど半病雞となり羽毛は光澤なくして漸次脱落し實に見惡き醜態を現はすものなり世間數多の養雞家は此の厄期に當りては懇篤なる注意を加へ飼養の管理に充分の手當を施さざれば貴重なる愛雞も一朝にして斃死せしむるの不幸を見ることは普ねく知る處なり今該期に際する飼養管理方法の要點を記さん

先づ舍内は務めて温暖清潔に保ち良好滋養の食餌を給するは勿論なれども之れを與ふるに際し殊に一層の注意を加へざるべからざると是れなり雞の此の期に際するや食欲非常に盛なるものにして平常は互に相睦みて快よく餌食を啄み居るものも今や情義などには一向に顧慮するとなく動物の常として互に食を奪ひ合ひて争闘し遂に

弱じやくの肉は強しやくの食じよくとなり、優ゆうなるものは勝かちを制せいし、劣りやくなるものは敗はいを取り強優じやくゆうのものは多々益々多量の食餌を得、身軀は愈々強壯たうじやくとなり無事むじに此の厄期やくきを經過けいごし得るも弱劣じやくりやくなるものは之れに反して常に充分の食餌を取ると能はず或は時に全く食膳じよくめづの分配ぶんぱいに預あづからざるとさへありて弱は益々弱に、遂に疾病を併發へいはつし果は斃死へいしするに至る者あり故に其食物の給與方法には前にも述べたるが如く勉めて注意し廣き場處に撒布まきちりし興おこふへし若し然らざれば弱のみ別々に給するか或は其他適宜の方法を擇むべし殊に「スバニツシユ」「ミノルカ」等の種族は此の厄期の衰弱甚しき者なれば一層の注意を要す

第九章 卵

第一節 卵の成立

卵は雌雞めんどりの卵巢らんさうに成り其初めは卵黄らんわうのみにして恰も粟粒あはづみの如き觀あり漸次成長して

卵巢らんさうを離れ輸卵管しゆらんくわんを通過つうくわし此にて卵白らんぱくを分泌ぶんびつす而して此の卵黄及ひ卵白は共に分泌物ぶんびつぶつ分なるか故に數層より成れり卵白中には極めて小さき一點あり之れ即ち植物にて云へば胚はい、動物にて云へば即ち胎子たいしの如き者にして卵の生活の基となるものなり透明の塊にして内に極微の點を有す此小點は常に卵子の位置に従ひ必ず其上部に留位す而して卵黄部を蔽ふに二膜あり内膜は薄くして圓く外部の膜は左右より中央に至るに従て厚く又此膜を卵白即ち蛋白にて蔽ふ此の上に亦殼膜あり厚薄の二層にして其間に空處あり孵化に近づくに從ひ空處漸々膨脹す是空氣を貯藏するに便するなり斯くて其上に通常所謂殼なるものありて之を蔽ふ殼は重に炭酸石灰にして少量の磷酸石灰及ひ蛋白質よりなる又卵白即ち蛋白分は半流動體にして無臭無味容易に水に溶れとも酸、酒精、及び百六十五度餘の熱に於ては凝固し決して再び水に溶解することなし其成分は多量の水、蛋白質、粘膜質、少量の鹽類なり

卵黄分は水分及び磷酸鹽を含む殊に脂肪分を含有す
 卵の重量千分中各部分の比較を示せば其内百〇七分は殻にして六百〇四分は蛋白質
 二百八十分は卵黄位の割合なり
 今左に蛋白質、卵黄、殻の百分中の成分を掲ぐ

蛋白質の成分	粘膜	鹽類	水分
一七、四	二八、六	〇、三	八五、
卵黄の成分	脂質	硫黄及磷	水分
一七、四	二八、六	痕跡	五四、
殻の成分	炭酸石灰	磷酸石灰及磷酸「マグネシヤ」	

二、 九七、

第二節 孵化用卵運搬の包装

孵化に供すべき卵は充分の注意を加へざれば容易に孵化せざるものなり殊に器物に
 入れ遠方に運搬するに於て然りとす今左に熟練なる養鶏家の経験に依て確認せられ
 たる方法を記さん

先づ普通の新聞紙を四つ切とし柔かに卵を包み其大なる方を下にし乾芻を敷たる上
 に並べ顆々の間にも動搖せざる様同じく乾芻を充分に詰め一層の外一顆も入れざる
 様箱中に装置し然る後蓋を當て荷造りをなすべし此の如くしたる者は大概孵化すと
 云へり

又食用とすべき者も前述の如く貯へ置けば永く保存することを得べし

第三節 卵の保存期

鶏卵は大概幾日位を保ち得るやは随分世人の研究せらるゝもの多かるべしと雖ども

未だ確説あるを知らず然れども試みに世人の稱する處を通じて判定を下すときは先づ極上卵即ち外殻の厚くして且つ滑かなる所謂完全なるものにして産卵後大凡三週間位保つもの、如し而して此の一定せざる理由は下の如き關係あるによるならんか

一、鶏の年齢及葦尾の如何

二、飼料の善惡

三、氣候及び貯藏法の如何

四、種類の如何

右の外種々の關係あるべけれども其主なる原因は以上の關係如何に依て大に保存期の差異に影響を及ぼすと考ふるなり

第四節 卵の貯藏法

鶏卵貯藏法は其卵内の空氣に外氣の寒温、乾濕の變化を感せしめざる方法を施すを

第一の目的とす故に其方法に至りては種々あり即ち濃く溶きたる石灰水を卵の外殼に塗るあり或は封蠟、阿利襪油などを用ゆるの方法を施せども何れも第一の目的に依て外殼の氣孔を閉塞し以て外氣の透入を防ぐの用に供する者なり左に參考の爲め二三の方法を記す

一、鶏卵を晒布の囊に入れ之を沸湯中に浸すと一分時間に及ぶべし然る時は雞卵蛋白部の周圍の外壁薄凝して一層の膜狀をなし以て外氣の通路を絶つが故に随分永日保存するを得ると云へり

二、最も確實に永久貯藏せんと欲せば新製の石灰水を取り大なる瓶に入れ此の内

に卵を浸し置くにあり但し充分卵の隠る、迄石灰水を充たすべし

三、鶏卵の外殼に「アラビヤゴム」の濃く溶きたるものか或は「バラフィン」油を塗付け能く乾し然る後木灰中に貯ふるを宜しとす

四、能く乾燥せる食鹽中に卵を入れ顆々相觸れざる様之を並べ冷處に貯へ動搖せ

ざれば五六ヶ月間位保ち其味は少しも新鮮の者と異ならずと云ふ

第五節 卵の新古を檢する法

左の方法に依て之れを檢せば大畧の新舊を判別することを得へし

先づ食鹽二「オンス」即ち十六匁ばかりを「バイント」即ち三合一勺餘りの水に溶解し此の内に卵を入れ其浮沈に依て之を見分くることを得べし即ち器底に沈み底部を離れざるものは多くは新鮮なるものにして少しく底部より浮き上り中間にあるものは前の者より少しく日柄を経たるもの又全く浮上する者或は卵の半分水面上に浮び出づる者などにありては尤も多くの日數を経たるものにして是等は食用にも適せざる者なり

第十章 家禽の病的

第一章 雞の疱瘡病

此の病は氣候不順にして幽鬱せる時に於て發するものにして冷氣を帶る時は殊に多しとす其初めは冠部或は嘴邊などへ疣の如きものを生じ初めは粟粒位の大にして其色多くは淡黒なれども灰白のものあり追々腫起して豆大となり諸部に傳播し遂には同群中數羽に傳染するに至る其病雞たるや食欲運動などに於ては左程平常と異りなければ多くは放任勝の取扱ひを爲すものゝ如しと雖ども決して斯く輕々視して放任すべき者にあらず宜しく充分の手當てを施すべし

第一 食餌に注意し成るべく消化し易き者にして淡泊なるものを與へ併せて麻の實及び胡椒などの如き刺激性餌料を與ふべし

第二 肉類其他脂肪質に富る食餌は決して與ふべからざると恰も人間に腫物の生ぜし時禁物を立るが如し

第三 放遊せしむべき舍庭或は舍内は勉めて清潔法を施し又病雞は毎夜巢に上りし際之を捕へて石鹼を以て頸部を洗滌し勉めて膿汗を去り然る後左記の處

方藥を塗抹すべし

藥用治療法

第一 坊間にて販賣する驅痒膏を塗抹するも宜し

第二 「オハグロ」を小鐵器内に入れ之を沸騰せしめ此の内に新しき鼠糞を混じ其溶液を塗抹するも功ありと云ふ

第三 沃土加里若くは鹽酸加里の強き溶液を塗抹するもよし

第四 石炭酸 硼酸 酒精 グリセリン 蒸餾水

二、〇 五、〇 一五、〇 二〇、〇 一六〇、〇 以上混合を塗抹す

以上の藥法中何なりとも亦め易きものより折衷して日に兩三回宛行ふときは腫物は暫時に黒色に變じて痂となり脱落して遂に全愈す

第二節 雞の咽喉病

該病の徴候たる其初めは人の(クシヤミ)するど畧ぼ同様の聲を發するものにして殊

に夜、時に昇りたる後甚しく之をなす而して鼻孔より白膿汁を垂下し眼力も幾分か衰ふる者の如し又翼裏の毛羽は糊を付け揉み荒したる如くなり何となく不快の有様に見へ實に見苦しき狀を現はす世俗之れを「シヤツクリ」病或は「ゴロ」病或は「ノドク」病と云ふ

藥用治療法

第一 麥粉を湯にて溶き之に硫黃末と鹽酸刺篤亞斯溶液の少量を加へ豆大の丸藥として日々三回つゝ與たへ爾后強壯劑として硫黃末の少量を與ふるを宜しとす

第二 菜種油の内に燈心を浸し輕症の者には之を長さ五分位重症には一寸位にして時に就く前に一度口を開きて咽喉部へ入れ強て吞ましむべし而して此の法は該病に功あるのみならず痘瘡病の輕症に施すも亦効ありと云ふ

第三 該病難部の氣管と食道を上部より下部へ指先きにて徐々と揉下げると日々

三四回つゝ四五日間續けて行へば亦効あり

第四 該病は一つの傳染病なれば病雞は別厩に移し置くべし

以上の方法を施し其病氣中は可成的食物に注意し決して黍、粟、稗、粉などの如き穀粒を與ふべからず何となれば是等食物は嚥下の際咽喉に滞りて食するに甚だ困難なれば從て病勢を増すの理なればなり故に此際與ふべき餌料は飯及び蕎麥粉などの澱粉質を團子として用ゆるを良法とす

第三節 羽虱撲滅法

雛雞の孵化後一週間乃至五六週間に於て死するもの年々幾千なるかを知らず而して飼養者は其死を避く可からざるか如く思ひ自己の不注意、怠慢、無識なるより起因するあるを悟らず單に天命の然らしむる處致し方なきの數語を以て恬として顧みず常に等閑に附するは大に誤れるものにして是等は多く虱の原因より起るものなるが如し依て之が撲滅法を左に記さん

- 第一 舍内其他の器物など一切清潔法を施すを要す之を爲すには雞舍を能く掃除し餘り汚らはしき處は生石灰水を以て洗淨し然る後舍内に於て硫黃を燃やして雞牀を薰烟するにあり
 - 第二 前已に述べたる雞の砂浴場粉土の内に硫黃末或は石灰の如き驅蟲劑を混用すべし
 - 第三 虱の數多寄生せる部分に菜種油、堅油若くは他の脂肪質を塗り付くるを良とす又除虫菊粉末を塗附れば最も効あり
- 第四節 獸類の嚙傷
- 第一 艾の生葉を取り其汁を絞り徐々に塗り薄き布片を以て傷處を巻き置くべし然る時は毒氣を解除するを得ると云ふ
 - 第二 又大蒜を成るべく薄く且つ廣く切り之れを傷處に縛り付け置くか或は押し舂して貼けるも効ありと云ふ

第五節 外傷

人跡の外傷を蒙りたる時の如く可成速に出血を止むるを要す出血全く止るに至らば百倍の石炭酸水を以て傷處を洗ひ其膿化を催さる内に

沃土「ホルム」(劇藥)を一日三回程患部へ塗抹すべし又白降膏を點抹するも良し

第六節 眼中の傷

鬪争其他の場合にて負傷せし時は左の如くすべし

第一 人乳に白砂糖を入れ能く之を溶し傷處に滴し込むべし

第二 茗荷の白根を絞り其汁を一日三回程附くるも良し

第七節 羽毛を食する雞

斯かる病ある雞には鮮魚及び骨灰を與へ其經過を見るべし之れにて其効なきものは到底治療の方法なきを以て直に屠殺すべし

實用養雞全書前編終

後篇 自序

西諺に曰く、健全なる思想は健康なる人の身體に宿る、と夫れ國家富強の要素は體軀強健にして勤勉なる國民にあり而して國民の體軀強健にして勤勉なるは何に因て得べき乎是れ食物改良の如き洵に其重なる原因の一なり概して我國に胃病者の多きは何故ぞ之れ日常の食物纖維多き蔬菜を多食するため胃中の不消化に原因すと歐米に於ては殆んど胃病者無きが如し是れ蔬食の量尠なくして肉食の量多きに由るべし又等しく亞細亞人にありても支那朝鮮其他に於ては我國民の如く胃病者の多からざるなり茲に於て歟獨逸の或醫學者は胃病に一名を付して日本病と稱す因て我衛生家は食物改良を主張して息まず又我國民の多數之を知らざるにあらずと雖ども如何せん一般の生活程度低くして肉食論の如きは謂べくして行はれ難きなり且牛豚肉の如きは之を我國民一般の需用に供給するに至らば我地勢は廣原に乏しくして大牧畜を

許されば一百拾五萬頭數の牛豚種は忽ちにして盡し其不足は之を海外に仰がざるを得ず然らざるも年々生牛の頭數を減ずるの傾向あり(乳牛を除きて)故に食物改良に就て我國今日の急務は小家畜を一般に飼養するにあり小家畜とは何ぞや曰く家鶏家鶺家兔は其類なり就中家鶏に至りては假令都會にありても邸宅地の片隅に於て飼養し得べく殊に七八羽の家鶏を飼養する時は日々五六顆の新鮮なる雞卵を得て牛乳に優るの滋食を食卓に供すべきなり是れ不肖余輩が我國家庭に養雞の普及を唱導して息まざる所なり蓋し此道に精練すれば是を專業として將來大に望みありて畢には彼の支那雞卵の輸入をも防遏するに至るべし頃日親友池田次郎吉君來りて余に家禽書の後半篇を草せよと余が不似の才を以て此重望を負ふ自ら難を知る然れども前篇には家禽に就て多年最も經驗ある杉田文三君が高述あるを以て余は聊か家禽經濟の着想を以て抱懷する所を記述するのみ後篇末に「養雞年中行事」の追加せしものあるは斯道初心の諸士が参考に資するを得ば吾人の満足是に過ぎず

明治二十九年紀元節記す

東都城南 藤井 淡海

實用養雞全書後編

藤井米八郎著

總論

養雞を創むるには當初に於て經濟上の要點に就て最も精細なる考案を下し而して後ち著手せざれば中途に於て養雞は全く收支相償はざるの事業なりとの迷誤生じて終には失敗を招き將來最も望みある事業に不面目の汚名を蒙らしむるに至るべし故に自ら工風を凝し成べく失費を除き外觀の華美なるよりは寧ろ實益を尙ひ他見の壯麗なるよりは努めて實利を重んじ専ら經濟上の要點に就て經營をなし而して五百羽或は千羽の養雞を專業となして一家の生計を立つると難きにあらざ然れども養雞は素より農家の副産にして其事業たるや細業なり是を專業と成すには第一に飼料を廉價に得るの途を確乎と發見するにあらざれば最初より多數の飼養に従事するとは甚だ

危険なりとす然し假令農家にあらざるも少しく邸宅に餘地ありて數羽若くは十數羽を飼養するか如きは日々食物の殘物其他少量の飼料を安價に購入して補食とすれば雞は自ら外に食を拾ひ或は虫類を啄喰して他は殆んど失費なくして産卵すべし更に農家に在ては農産物の廢物或は遺粒を以て飼養し得べくして別に費を要せず是最も有益なる副産なり假令其事細業に似たれども微を積て大を成すは農家の分なり況や養雞は甚だ有効なる肥料を出すに於てや農家の養雞に就て是を一國の經濟上より見るときは實に輕視すべからざるものあり我農家毎戸一雄七雌の洋雞を飼養し一雌より一ヶ年間に平均二百顆の産卵を得れば七雌にして一ヶ年間に千四百顆の産卵を得之を一顆八厘に見積るも其收額は十一圓二十錢となる是を我國の農家四百三十萬戸に推算する時は實に我農家の富は四千八百拾六萬圓と成るべし佛國は世界に有名な家禽國にして或る同國人の説によれば同國都府巴里に於て一ヶ年間に消費する雞卵にても無慮二十億顆に降らずと云ふ假に一顆の價を一錢に見積るも尙二千萬圓な

り佛全國の一ヶ年間に消費する雞卵の價格たるや實に莫大なりと云ふべし尙其殘餘を他國に輸出する全額は一ヶ年間に一千萬圓に達す其内英國に輸出するもの七百二十九萬圓餘なり若し斯る雞卵價格を統計上より見るときは人或は佛國の養雞の盛大なるは定めし廣大なる養雞の專業者ありて其大部分を産出するものと推考せん蓋し其實決して然るにあらざるなり其内或は大仕掛の養雞場あるべしと雖ども其大部分は婦女子の片手間として或は老翁老婆の過勞に耐へざるを以て此閑業を營み或は一般の農家が副産として家雞を飼養して此一大産物を出したるものなることを知るべし夫れ亞弗利加洲ナイル河の大水も其水源は之れ一滴水の雨集より成る國家一齊の力の如何に大なる乎を知るべし佛國の勤勉なるは彼國小農多きがゆえに其執る處の業も從て亦緻密なれば養雞に就ても彼國に學ぶべきものあり左は即ち佛國農業雜誌に掲載せられたるものにして佛國養雞の一半を推知するに足らん

「若し夫れ養雞の利益ある點に就て言ふときは農家にありては牝雞の飼料に豊饒なる

は今更辯を俟ず假令農家にあらざるも兵營、塾舎、寺院、酒樓、飲食店等殘物を最廉價にて購入すれば多數の牝雞を飼養し得べくして且つ利益最も多し其他普通の家にありても許多の食物の殘餘或は廢物あるべし例へば食卓上の殘物、汚れ或は硬くなりたる麵包、肉羹及び野菜の殘物、腐敗したる肉、骨、家兎、野獸、魚、貝の臟腑或は腐敗の乳汁、葡萄酒、林檎酒、麥酒等の渣滓の如きものは得易かるべし故に牝雞は農家に限らず他の各人家に於ても皆之を飼養し得べく又他の各人家は農家に均しく入費を要せずして卵と雛とを得るに難からず且其飼養の牝雞は其家に生ずる天然の資本即ち食餘の殘物の多寡に相應すべく或は少しく此資本を超過するも之を補足するの入費は些少を要するのみ。然ば入費も要せずして飼養し得べき牝雞の數は如何の比例に依りて定むべきや蓋し此比例は人家食物の多少を算するにあらざれば確乎と之を定むること難し然れども茲に飼養し得べき家禽の數は家内の人員に比例すると假定するを得るなり即ち家内に食事するもの十人あれば十羽の牝雞を飼養

し得べく毎日平均五十人の來客ある食店にては五十羽の牝雞を飼養し得べき割合なり尙其家に馬を飼ふときは更に牝雞の數を増加するとを得べし是廐肥は家禽の爲め餌料の一なればなり若し亦其家に犬或は猫などを畜ふときは其割合を減ずべし犬と猫とは家禽の食餌となるべきものを食減するものなればなり前述の理由あるを以て凡そ少しく自家の利益に注意する人は一錢の費用なくして若干の牝雞を飼養して一少年一羽の牝雞よりして十法の利益を得るなり又家内に十人食事するものあれば十羽の牝雞を飼養するとを怠るとなくば其歳入に百法(凡そ我三十六圓餘)を増添し若し十羽の牝雞を飼養せざるものにおいて百法の歳入を抛棄する譯なり夫れ一年百法の利益は實に少額なり此百法は以て之を古昔家兎を飼養して得たる三千法の歳入に比較するに其相距る甚だ遠しと雖ども實利的の牝雞と空利的の家兎との異なる所以なり去れば余が説の着實なる余が計數の低度なる果して世人をして浮誇張大の事ならざるを認了せしむるを得ば満足之に過ぎざるなり

以上は佛國實業家が如何に其聲の小にして其實の大なる乎を讀味すべき一説なれば殊に是を譯して爰に掲載せし所以なり抑も養雞に志す士の服膺すべき要點なりと信ずべし

家禽の沿革

太古人智草味の世にありては人々、未だ火食の事をだに知らず况や稼穡の道に於てをや故に曠味の世に於る人食は之を専ら天産物に依頼せしや嗟々たり其天産物に由て生棲せし民食は禽獸、魚、貝及草根、木實なるべし彼の所謂水艸を追て遊牧する者一度土壤膏腴なる埃及に移住せし時、業に稼穡の道を知り此に定住するに至るや諸般の野禽、野獸は馴養せられて家禽、家畜となりたるものありと云ひ尙聞くが如くんば埃及に於ては人工孵卵の如きも最も早くより行はれ駝鳥の卵は馬糞にて孵化せりと云ふ然れども家禽の起原たるや泰西畜産學者の所説に由るも區々にして定説

あるとなし西曆紀元前既に中央亞細亞、西亞細亞及び熱帶諸島に於て野禽を家に馴養せられたると明なり決して一の邦土より世界に傳播せしものにあらざるべし而して我國家禽の元始は之を異土より傳へたるや又は本邦の原産なるや審かならずと雖も本邦の尾長雞に至ては他國に於て其類を觀ず此特殊なる種類あるに因て考ふれば所謂和雞なるものは本邦の原産にあるや明白なり且つ口碑に傳はれるもの又國史に存する所に由れば既に神代に養雞の事、創まれるが如し或説に據れば本邦に養雞の起りしは伊弉諾尊、伊弉册尊が淡路の小島なる磯取盧嶋に降らせられ八尋殿を建られまして都とせられし時に始まりたり當時百般の事柄總て具備したるが如しと雖も野禽を化育して果して家雞となせし乎は頗る不明瞭なり然るに舊事記、古事記などに據れば日神天磐屋戸にさし籠り給ひしとき思兼神は常世の長鳴鳥をあつめて鳴しめさせ給ひしとあるは即ち天照大神が石窟戸を開かせ給ひて國中復び明なりし時をとをさしたるものと考へらる扱て長鳴鳥とは即ち雞の事を云ひたるなれば此

時我國に雞のありし事は明なり爾後崇神天皇の御代に至りて農政起り鳥養部と云へるもの設られたり又雄略天皇の御代となりて穴居の者漸く化して悉く家屋を作り諸般の事革まりて美觀を呈するに至り野雞は家雞に化育せしものと知らる降つて明和年代に至るまでの事蹟は頗る不分明なりと云ふ

我國家禽の起元は以上の如く甚だ大古にあるに拘はらず家禽改良蕃殖の振起せざるものは他に理由なくんばあらず蓋し我國に於て普通に家雞を飼ふ其目的たる多くは告晨、愛翫の二様にありて中には實利的の飼養者あるも是また單に採卵の利を見るに止るのみ我國雞種の劣等なるは畢竟需肉に急ならざるが爲めなりとす其需肉の急ならざる所以は我國に一度佛教の傳來するや其教旨に殺生戒なるものありて肉食を嚴禁したり抑も佛教の出でたる地は熱帶國にして肉食せざるを以て人の健康に適せりとす殊に肉食は殺生にして佛徒の慈悲に於ては忍びざるものとせり故に古來我國の神社佛閣の境内には數多の老雞の放生せられたるものあり斯の如く老雞といへど

も屠殺せざれば大に家禽の改良發達を害したると決して尠少にあらず殊に家鴿の如きは神聖なる使鳥として徃古此肉を食せし者曾てあるとなし是れ我國家禽の退歩せし遠因なるべし且又我邦固有の雞種に至りては甚だ單純なるものにして其種類は尾曳、鏡東、地雞等にして長尾雞にありては純白、赤羽、笹羽の類なり

明和安永年間は恰も徳川幕府の中興に際し天下泰平の世なりければ民の嗜樂も進みて優雅なる養雞は流行せり當時和蘭陀船は幕府の通商特許を得たれば肥前長崎に交易すると盛にして山羊、家禽等は屢々船載し來りぬ又當代江戸及び西國の強藩中に於ては好んで珍奇の家禽を飼養せり又當時一種の雞鬪なるもの流行せるとあり因て新規の雞種を増加せり今其種類の大略を擧れば蘭雞、反毛雞、烏骨雞、南京雞、暹羅雞、蜀雞、七面鳥等に於て七面鳥、ケレーヴキヨール等長崎邊に飼養せられたるとありたるも是等は流行するに至らざりし

次で嘉永より慶應に至れる間は家禽の流行一盛一衰屢々ありたるが如し曩に擧げた

種類の他に米國より輸入せしもの二三種ありて一種は交趾雞なるも其他は詳かならず斯の如く既に我邦に種々の洋禽舶來せしとは明白なりと雖も遂に蕃殖普及せずして跡絶えたるは惜むべきなり今日尙僅に其血統を存するものは暹羅雞、蘭雞、烏骨雞、蜀雞等なり然るに我地雞に一大變遷を與へたるものは蓋し彼の暹羅雞にして該雞は元熱帶地の産なるも能く我風土に蕃殖し其血統の遺傳力頗る盛にして本邦固有の地雞にして暹羅の血を交へざるもの殆んど稀なるは恰も彼和犬にして洋犬の血を交へざる純粋の和犬の稀なると同一般にして蓋し是れ生物自然の優勝劣敗なり夫より降つて明治十八九年の頃ほひに至り我農界の形勢は漸く家禽改良の急務なるとを知覺せしより我農商務省通商局に於ては歐米派遣の領事に命じて各國家禽事業の形況を取調られ又歐米漫遊の途次之を取調たる民間の有志ありたり、故植木音次郎氏は職を農商務省に奉じ夙に本邦家禽改良の事に任じて最も力あり氏は明治廿年に於て養雞場を設たり是本邦に於て改良種禽場を設けたるの創始なるべしと云ふ而

して氏は殊に當初に於てミノルカ、スパニツシニ雞を蕃殖し同廿一年に至り氏は大日本家禽俱樂部なるものを組織せり當時余の如きも參贊の一人なりし同俱樂部は毎月一回家禽談話會を開き又家禽雜誌を發行せり爾後東京府下及び各地方に於て種禽場續々起り明治廿二年に至り日本家禽協會起りて我家禽界を補益したると鮮小にあらず又同年東京に於て家禽品評會を開設せられ爾後各地方に於ても此設けあり翌廿三年に至り東京家禽雜誌の發行ありたり又廿有餘種の家禽書出版せり我家禽界は實に斯の如く急進して大に識者の憂慮する所となりし然れども今や家禽業は我邦重要なる一物産と見認するに至り其筋に於ても殊に此事業を勵誘しつゝあり又民間に於ても團體を組織し或は組合を設け専ら獎勵せらるれば今後着實に進歩するに至れば或は蠶業に次で有益なる一物産となるべきは吾人の疑はざる所なり

養雞の目的

家禽の飼養には種々の分業あり之を大別するときには家禽の専業、家禽の副業の二部門に別るべし又家禽の専業に於ては更に左の如き三部門に區別せらるゝものとす

一 家禽の専業

家禽の専業に三部あり曰く種禽曰く需肉曰く採卵是なり

(甲)種禽業 種禽の専業は家禽の沿革に於て略ぼ叙述せし如く本邦にありては去る明治十九年東京に於て始めて起り爾後全國に普及して一時甚だ盛況を呈したるが同廿四五年の頃に至り順に衰退を來したり凡新事業なるものは多少の弊害を随伴するは是れ免るべからざるものにして養雞の如きも當時此事業を起す者の經驗なかりしより尙初に於て餘り過大の豫想を懷きて此新事業を起し而して實地を履みて後始めて其聲の大にして其實の少なきとを知覺せらるゝに至れり然れども今や將に起らんとする所の新事業は最早投機的の考を以て手を下す者なかるべし前轍は深く後車の試石たるに足らんのみ

夫れ家禽種類の改良に就ては各地方郡縣の農務課勸業課の専ら奨励せらるゝ所となり或は町村農會に於ても又是が改良を計りつゝわれは將來種禽種卵の需用を増殖するや蓋し疑ひなからん就中愛知三重千葉茨城埼玉兵庫縣下の如きは雞卵及び雞肉は重要な物産の一に數へられたり天下新業の實利實益を見認するに至りては本邦重要の物産と成るや明なるべし實に本邦の家禽種類の改良は種禽家の任務にして篤實なる當業者が一致團體の力に頼りて飽造國家の福利増進の精神を以て新業の弊風を排除し又一方には家禽の協會或は品評會、共進會の如きものが常に奨励を加へ、其完美優等なる種類を需用者の爲めに證明して彼の射利的不正種禽家の瞞着に陥らしめざる様最も正確ならんとを計らざるべからず

而して新に種禽業を起さんには到底二三年を以て成效し世に信用を博するは頗る至難なりとす故に先づ五七年の計なかるべからず若し夫れ家禽流行の一盛一衰の小波動に浮沈するか如きとなく事業を遠大に期して遂には家禽傳習所をも設くるが如き

時運に至らざれば未だ以て此事業の盛況を公言するに足らざるべし時運をして茲に至らしむるには家禽の種類を一層精撰し種禽及び種卵の價格を大に低下して斯業の改良發達を期せざるべからず

(乙) 需肉業 需肉業は本邦人の生活の程度今日の有様にては驚を除くの外是を專業として特別の需用なきに於ては殆んど收支相償はずして先づ望みなしと謂ふも不可なし尤も歐米に於ては随分多數の肉用雞を仕立て相應の利益ありと言へども本邦に於て往年家禽流行の當時肉用雞として「ブラマ」其他四五種の飼育を盛んに試みたるものありしが單に肉用雞のみを飼養するときには洋禽場の看板にして殆んど實益なきものどせり人或は歐米養雞の好況を觀て直に本邦に於ても彼れか如く利益ありと速了せらるゝなき歟夫れ邦土異なれば物價輕重の比例も從て異なるは勿論にして米國にては百斤の小麥粉「ゴールデンメロン」は一圓廿八錢に當り我國にては之を彼より輸入すれば一圓七十五錢に相當す雞卵一ダース(十二個)の價格は彼れは三十五仙

(現今時價我六十錢餘)なるも本邦にては十五錢六厘(以上の相場は五ヶ年平均)なり斯の如く彼は飼料廉にして卵肉は高直なり
試みに需肉雞經濟の點に就て精細に算すれば肉雞の四五百目に達して之を市場に出すまでには孵化後凡そ八ヶ月を要すべし此間一日の飼料を二厘と見積れば實に二百四十日にして四十八錢を要す而して之を仲買人に賣出せる地方肉雞の相場は平均目の八文即ち百目八錢位なれば五百目の雞は四十錢にして差引八錢の損耗となるべし例令飼料を半減して一日一厘とするも其得る所僅々十六錢なり之より種卵母雞等の諸費を引去るときは餘す所とては殆んど無るべし且つ本邦に於ては殊に肉用雞の利益薄き所以は今日市場に上るものは不配偶の雞(一雄に數雌を配すれば雄雞を餘すゆえ之を屠殺用に賣出す)及び二年以上の老雞にして産卵の盛期を過したるもの或は換羽、休卵期のもの賣出せば其肉食の風未だ歐米の如く行はれざる我邦にありては今日まで供給に不足を感じて甚だしく雞肉の不足を訴へたるとなし

(丙) 採卵業 採卵は家禽事業に於る經濟上の最要部を占め之を專業として將來益望ありて種卵業の如く需用の區域狹隘ならずと雖も必ず何地にても利益あるものとは言ひ難し採卵の專業に就ては左の要項に着眼すると甚だ肝要なりと信ず

(イ) 採卵雞の專業は氣候、風土の適地を撰定すべき事
採卵の專業は積雪甚しき寒冷の地方に於ては管理に手数を要するのみならず冬期家禽の舍外に運動する能はざるを以て止を得ず家禽舍を廣く造りて運動せしめざるべからざるが如き或は寒冷烈しき爲め産卵を減ずる等の不利あり又風當りの烈しき地は多數の家禽を飼養するに甚だ不適當なり或は亦陰濕の地は家禽の健康に害ありて不可なり故に採卵の專業に適當なるは假令暖地にあらざるも冬期積雪甚だしからずして風當りの烈しからざる高燥の地に於てするにあらざれば成業の望みなきものとす

(ロ) 採卵雞の專業は都會に接近せし地方に利ある事

總て事業は需用と供給の比例を考へ然る後着手するにあらざれば折角の生産物も其價格低廉なる上に捌け方悪しきときは他の農産物と異なりて雞卵の如きは腐敗を醸すとありて失敗を招くべし之に反して大都會に接近し或は之に運搬の便利なる地方は常に高價を保ちて供給の不足を訴え年々騰貴の勢を示せり例之ば千葉縣は東京に、愛知縣は名古屋に、淡路は神戸大坂に接近し或は運搬に便利なるを以て其産額全國に最も著大なるなり而して其價格の如きも常に高價なりとす、是に反して四國は大都會に遠隔し且つ運搬も亦不便利なるを以て高知縣の如きは之を大坂の雞卵相場に比較するときは二十割の廉價なり又た北海道は全國中最高價なるも産卵雞の産出、内地の如く多からざると諸物産は多く内地より仰ぐを以て其物價と比例するときは獨り雞卵のみが高價にあらざるべし左表は數年前或筋より全國各府縣に求めて雞肉雞卵の價格を照會せられたるものにして内最高價及び最低價の府縣下の分のみを摘載したり表中の價格は今日に比較するときは素より多少の變動あるは勿論なれ

と只其價格の甚しき相違あるを示せるに過ぎず

府縣名	鶏肉一斤	鶏卵一個	府縣名	鶏肉一斤	鶏卵一個	府縣名	鶏肉一斤	鶏卵一個
京都	一五〇〇	一四〇〇	千葉	〇八〇〇	一二五〇	兵庫	二六五〇	一一〇〇
大阪	一六八〇	一五〇〇	高取	〇九〇〇	〇七〇〇	宮崎	〇七五〇	〇五五〇
東京	一〇〇〇	一六〇〇	高知	一四五〇	〇五〇〇	島根	〇六五〇	〇五七〇
愛知	一七五〇	一〇五〇	大分	〇六〇〇	〇七〇〇	沖繩	〇七五〇	〇六五〇
徳島	〇七〇〇	〇七五〇	鹿兒島	〇五〇〇	〇六五〇	北海道	一〇五〇	二八五〇

右價格は肉の上中下及卵の大小共に平均せしものなり

(ハ)採卵雞の專業は飼料を最廉價に得ると能はざれば成業の見込なき事
 採卵雞を專業となすには第一飼料を最廉價に得るの途を發見して然る後着手せざれば何程熱心を以て成業を企つるも到底收支相償はずして中途業を廢するが如き事に立至るべし故に此點に就ては慎重なる豫考なかるべからず採卵雞の飼料を最廉價に

得るの途は例之ば市中多人數の廢殘食料。學校。兵營。旅店。料理店。飲食店。等の如き或は。水車場の掃寄せ。搗米屋の小米。糠。掃寄せ。米穀問屋の漏米。船舶の掃寄米。船粕。ビール糟。麩の糟。豆腐粕。菓子屋の船粕。醬油糟。燒酎糟。或は。糞。等は農家より求め或は。馬肉の劣等なるものは最廉價に得べく。牛肉。牛馬豚雞の臟物。及び其骨。或は海川近邊にありては魚貝類の廉價なるもの。貝壳或は。海川の干魚類。練。エマメの類も廉價に得れば折々補食とすべし。或は。鰯の蛹の干したるもの或は。蒲鉾屋の廢物等以上の飼料を最廉價にて買入らるべきものは豫しめ特約を爲置き一羽の家禽に一日の飼料平均一厘より一厘五毛位にて飼養するにあらざれば採卵雞專業を起すも利益を收むべき充分の見込なきものとす

(ニ)一千羽以上の産卵雞を飼養するには自家にて五反歩以上の耕作を爲すにあらざれば養雞專業は確實ならざる事

多くの生物を取扱ふには時に或は不測の變なき克はず自家生活の半を補ふに足るべ

き確實なる方法は五反歩以上の耕作を成して傍ら禽食を作りつゝ益々家禽事業を擴張すれば假令一朝雞病を發して雞種を盡すも又回復の餘力あるべし今日迄家禽專業にて失敗せしもの其多くは不測の變に備ふるとなき一時に全資を此新事業に投じたるに原因す若夫れ茲に充分の準備を整え然る後着手するに於ては蠶業の如く危険の甚しからずして其利益は周年に及べは蠶業より決して降りたるものにあらず

二 家禽の副業

凡そ農家の生計は微細を積みて大を成すものにして今夫れ農家が數羽若くは十數羽の家禽を飼育するには別段費用を要するとなきして其得る所は眞の純益たるなり即ち譬へば餌料の如きは穀物の廢殘物又は遺粒或は根菜類の屑物等を以て足るべく冬季に至り雞食の缺乏を訴ふるも平常の心掛にて米麥の糶の如きものは成るべく冬季に給する様に注意すれば殆んど四時餌料の爲に失費なくして飼養するを得可し又管理とても別に手敷を煩はすの必要なかるべく概して放任し置きて可なり且雞舎の

如きも殊更に之を建設するに及ばず唯住宅の片隅に無造作の箱棚を吊して巢塹を設け置くのみにて足れり而して雞は早朝自ら起き出で夕には又自ら歸り來りて巢塹に着くなり單に手敷を要すべきは月に二三回巢塹を掃除するのみ然れども其勞は得る所の雞糞を以て充分に償ふに足れり

本邦農家に向つて喋々副産としての家禽飼養を説くは頗る事情に迂き議論にして仔細に本邦農家の情態を視察すれば却つて從來農間に副産的養雞の普く行はれ居るに驚くなるべし偶々農家に家禽を飼養せざるものあるは他に何等の理由なくんばあらず若し邸地或は邸宅に近く貴重の作物あるときは折角播下せし所の種子を播荒し又は收穫前後に於て被害あるを恐れて家禽を飼養せざる者もなきにあらず故に余輩は農家に對して家禽の事を説かんには先づ家禽の種類改良及飼育改良の急務なるを唱道せんとを望まんとす

副産的の家禽飼養は獨り農家にありて他に望なき業にあらず假令商人職人にても官

吏にても若し住宅地に數坪の明地あれば何人にも數羽乃至十數羽の家禽を飼養するを得べく若し其方法にして宜しきを得れば自家消費の新鮮なる滋味を得られ其餘す所を以て幾何の利益を得らるべし單に利益の一點に止まらず養雞の如きは甚だ娯楽にして亦興味多かるべし主婦小供等には殊に養雞を奨勸すると余輩が平素の持論にして小供の家庭教育上自立の志望を起さしむる一端なりと信ず然れども這般の養雞は其利益の點に至りては到底農家の副産的養雞に及ばざると勿論なるべし本邦に於て農家の副産物として養雞の戸々に能く普及したるは淡路國なるべき歟彈丸黒子たる一小島に過ぎざる同國にして毎年産出する雞卵肉の價格真に一驚すべし左は淡路島養雞の概況なりとす

兵庫縣淡路國は古來家雞を飼養するもの多き處なるが三四年以前より殊に盛に飼養するに至れり先年同縣勸業課員の調査に據れば農家大抵三四羽乃至二十羽を飼養す之を平均すれば一戸雌四羽雄一羽合計五羽となる同國農業者の戸數は三萬二

千六百七十戸にして毎戸五羽を飼養すれば十六萬三千三百五十羽となるなり今雌一羽の産卵百五十個と見積れば雌雞十三萬六千八百八十羽にて實に一千九百六十萬二千個となる一個の價八厘にて此産額は十五萬六千八百十六圓なり此内七八分は神戸大坂邊へ輸出す雞肉も多くは漁船に積み毎日兵庫大坂へ輸出すると二百羽以下五十羽以上之れを一ケ年に見積れば三萬六千羽一羽の價二十五錢とすれば此金九千圓なり是れ漁船便の輸出高なり他の方法にて輸出するもの該地方にて消費するものを合すれば二萬圓以上なるべし而して同國にての飼雞は大抵女子の仕事にして下等農家に於ては此の収入金を以て油、元結、鹽及び戸數割稅等を支辨せりと云ふ、

三 養雞業の適地

前牧畜雜誌主筆たりし故加藤懋氏曾て余に語りて曰く支那人は鷄の卵を孵化し之を飼養するに甚だ妙を得たり随つて養雞を專業とする者亦た多し孵卵者は數萬願の鷄

卵を購入し此内より健全なる孵化力を有するものを精選して之を箆様の籠に盛り煖鍋に挿入し置くこと凡そ十五日間にして更に之を取出し同室内に於ける蘆製の棚上に薄團を布きて一々卵を列して其上を又薄團にて包みよく温度を保有せしめて後十日乃至十五日間を経過するときは其卵は盡く孵化して雛を生ず而して前の煖鍋は泥土を以て籠を築き土製或は鐵製の大鍋を置き鍋中の温氣の放散を防がん爲め藁を以て厚く造りたる蓋を置きたるものにて此の仕掛にて一度に千五百顆乃至三千顆の鶯卵を箆に盛り煖鍋に入る鍋下には炭を用ひ始終温度の平均を保持せしむ其温度は寒暖計を用ゐざれども彼等か熟練の手は即ち是れ寒暖計なり借て孵化の時節は陽曆の三月より七月迄に於てす其他の月は不可なりと斯の如くして孵化し得るもの百顆に付九十顆位なりと云ふ一度孵化せしものは一々其雌雄を十五日間内に鑑別して雄は之を賣却す其價格一千羽に付二圓より四圓迄にして生卵の半額に過ぎず又鶯の飼養者は孵化專業者より雛を買入れ其内より更に健全なるものを精選して弱きものは盡く

く之を市に賣出し壯健なる雛のみを一艘の破船に多小の道具と籠等を準備して三千羽乃至一萬羽の雛を載せ水路に沿ふて大河を下る雛は行く／＼船に伴ふて游泳し水中の魚介或は虫草等を啄食し飼主より別に何等の食餌をも給せずして鶯は毎日腹に飽く程の食物を得るなり斯の如くして船の市中に入るときは鶯を賣却す年中幾度か此法にて飼養するものあり此業は支那中央部即ち堀割の連續する場所に於て最も多く又湖邊に徘徊する者あり夜間は江中に泊すれども鶯は皆船中に寐て天明には又直に水中に飛入り毎日期の如くして一歳中の渡世となせりと云ふ

養鶯の目的は採卵よりも需肉に利益あるものとす而して鶯の種類多しと雖ども就中「アイルスベリー」は之を採卵用として飼養するも其卵は他の鶯卵の如く臭氣なく且多産なれば相應の利益あるべし「アイルスベリー」は英國の原産にして今より十年前某氏が本邦に輸入し多田正英氏に依りて飼養せられ博く本邦に蕃殖せり此鶯は羽毛純白にして愛好すべき點多し且甚だ強健にして飛鳴するとなく食餌の如きも割合に

食らず卵は一顆目方廿二匁より廿五匁迄にして體格は雌雄とも大差なく概ね三ヶ月半にして市場に賣出すを得べく體量は七八百目より一貫二百目に至る此鶯を本邦に於て始めて飼育せし多田正英氏は去る二十一年春一番を宮内省へ獻上せられ同年秋宮内省より斜子白絹一反を下賜せられ同年博物館動物園に一番を獻納して賞勳局より木盃一個を賜はり又同年五月六日本農會品評會にて二等賞を得られたり

借て鶯は甚だ貪食性の禽類にして之が通常の飼養法にては到底利益を見ると難しと雖も其飼養法宜しきを得れば利益を得ると難からず而して其飼養法に二種の別あり即ち左の如し

(甲)陸飼法 此飼養法は飼料を多く要するの一失あれども速成育にして鶯を肥滿せしむるの利あり千葉縣船橋近在及行徳近傍にて夏期東京に輸入するは皆此陸飼法に依るものにして此法は鶯を池澤に放ずして低き柵を造り柵の中央には水溜一個を穿ちて常に水を滿らしめ置き可成鶯を過敏に運動せしめざる様にし随つて柵

内をも餘り廣からざる様造るべきなり此飼養法は先づ第一に飼料を廉價に得るとを考へざる可らず若し多數の鶯を飼養せんには可成都會の地に於て販路を探り置き春彼岸前後に孵化して七八月恰も盛夏の候に賣出すべし雞肉の消費は冬期に多しと雖も雞肉は反つて暑中に多し而して飼料は海岸に近き所にては魚商漁師の賣残りの小雜魚に麩、大麥の粗糠、米糠、醬油糟、豆腐糟、鮎糟、麩糟或は野菜の屑物、水車場の掃寄等其土地にて最も廉價に得易きものを數々混じ之に米の洗ひ水の如きものを入れ大釜にて煮て與ふれば鶯は速に肥滿するを得可し但し鶯は一日にして市場に賣出す様に飼育せざれば利益薄し尙賣出す前十日旅店料理店或は兵營學校の壘舍等の殘飯を買入れ之に魚商の賣残りの小雜魚及米糠を混じて粥の如く煮て與ふれば一層著しく肥滿するものなり

(乙)水飼法 此飼養法は陸飼法の如く速に成育を遂げ難く且肉附惡しき點は不利なりと雖も餌料を要すると少ければ是れ又設計法及地理宜しきを得れば利あるべ



一ツノムシノイ

し水飼法とは鶯の性原種の鴨の如く（鶯は原來水禽族なる鴨の幾代も馴養せられて今日の如くなりたる者なり）水邊を好む故に湖水澤池沼河水田等を利用して飼育するを云ふ近江の琵琶湖の邊にて盛に鶯を飼養する者あるは其一例なり但し清泉と急流の河水にては餘り望なし又池澤等の餘り急に深きは宜しからず鶯の水中にて得る所の食料は魚介水虫のみならず芹の如きは頗る嗜好して食するものなり故に鶯の食を得るには水淺くして廣く且水草多くして急流ならざる處に於て最も獲物多かるべし斯る水邊にて飼養すれば給食は日に一度にて足るべし其餌食は餘り粗悪なるものを給するときには反つて不利なれば大麥に麩及米糠等を混じて水少量を和したるものを給すべし又其給食は毎日一定の時刻即ち日没一時間程前に於てするものとす若し此の給食にして不足するときには再び水邊に出んとするものなれば可成多量に給して食し終れば直に厩に歸らしむる様にせざれば制御に究するところあるべし而して水飼の鶯は肉附悪しければ市場に賣出す前凡そ十五日にして

(甲)水飼法の終りに言へる如き肥満法を行はん爲め柵飼とすれば更らに利あるべし

以上は養鷄法の大要なりとす

養鷄業の遺利

一 鷄糞の利

僅に數羽の家禽を飼養する者にありては糞の如きは左まで目立つ程のものにあらざと雖も既に五十羽以上の養鷄者に至ては假令家禽に於ては收支相償ふのみにて別に餘す所なきも特り鷄糞は養鷄家の純益となるものなり養鷄家にして能く注意しなば一羽の家雞より得る所の鷄糞は一ヶ年凡そ二十錢許なるべし之を百羽に積れば二十圓にして若し一千羽を飼養すれば一ヶ年の鷄糞代は實に二百圓を得可し愛知縣參河國渥美郡なる小柳津友治氏は三千羽に近き家禽を飼養せらる同氏に就き親しく聞

く所に據れば氏も亦養鷄業は鷄糞代が純益なりと言へり尤も愛知縣の如きは鷄糞の効用一般に知れ渡れる爲め他縣に比すれば高價を有し現今一圓に付き二十貫なりとぞ

二 鷄糞の効用

本邦農家に於ては漸く鷄糞の有効なるを認識するに至り殊に愛知、千葉、茨城其他諸縣に於ては家禽糞を賣買するものあり實に鷄糞は之れ養鷄家の純益となるものなれば注意して外に散亂せしものをも之を精細に拾ひ集むべし而して日々家禽舎及び外に拾ひたる鷄糞は之を永く一所に堆積するとなくして之を能く干し乾して俵に詰り置くべし佛蘭西、獨逸、露西亞等の養鷄家は毎日家禽場を掃除して得たる家禽糞には砂土或は石灰其他一二の藥品を混じて之を貯藏し此糞代のみにて一家の生活を立つるものありと云ふ尤も西洋にては家禽の糞は農家が最も貴重なる肥料とするは其容量小にして有効なるにあり今重なる家禽の糞分析を示せば左の如し

種類	水分	有機物	窒素	燐	酸	ポッターズ
鶏糞	五六、〇	二五、五	一、六三	一、五四	〇、八五	
鴨糞	五六、六	二六、二	一、〇〇	一、四〇	〇、六二	
鵝糞	七七、一	一三、四	〇、五五	〇、五四	〇、九五	
鵪鶉糞	五一、九	三〇、八	一、七六	一、七八	一、〇〇	

右表に就て見るときは、鶏糞は最も水分少なくして窒素に富み之に亞ぐものは、雞糞にして牛馬羊糞に比すれば遙かに優れり又家雞糞に就て心得べきは糞と尿の各別に排出するにあらざして之等の排泄物は一種に混じり故に此排泄物を肥料として特効あるは其窒素を含有すると多きに因るなり然るに新鮮の排泄物にありては其多くは此窒素は尿酸鹽と稱ふる化合物を成す尿酸鹽は肥料の効なく且つ雨水に流れ易し由て固塊の糞は一旦水又は人畜の糞水中に溶解し之を攪拌して一週間許放置するを可とす然るときは空氣中の酸素の爲に尿酸鹽は安母尼亞に變化するを以て之を植物に

施して特効あるものとす

三 家禽場の副産物

家禽場に夏向き日光を避け清冷を保ち或は風を防ぐ爲には良好なる菓木を植ゆべし數千羽の家禽を飼養する地域は從て廣濶なれば數百本の菓木を植ゆるに足りぬべし菓木中最も收利多きものは天津水蜜桃、上海水蜜桃、梨子、林檎、柿、葡萄等にして殊に上海桃の如きは移植後四五年を経れば一廉の財源となるべし其他菓木の類頗る多しと雖ども落葉樹中收益多きものに至りては右に優るものなかるべし

家禽の種類

家禽種類の解説に至つては世間其著書に乏しからず今之を詳細に説明するときには自ら一大編となるべし故に本編に於ては去明治十九年以來我邦に輸入せし洋禽七十有餘種より本邦の氣候風土に適したるものを選択し之を左に區別して産卵肉用及び其

他の家禽名稱を擧ぐるに過ぎざるのみ

一 産卵雞の種類

- レグホーン 此雞には。白色單冠。同薔薇冠。褐色單冠。同薔薇冠。黑色單冠の五種あり
 - スバニツシユ 此雞には。單冠黑色。同白色の二種あり
 - ミノルカ 此雞にも。單冠黑色。同白色の二種あり
 - アンダルシヤン 此雞は。單冠にして黑色。灰白の二種あり
 - ハンパীগ 此雞は。金色霞基石。金色鷹羽基石。銀色霞基石。銀色鷹羽基石。黑色等の五種あり
- 以上の五種類は産卵雞中の最優等なる種類なりとす其内強て産卵多きものを撰すれば白色單冠レグホーン並にアンダルシヤンなりとす
- ウーダン 此雞は毛冠なれば寒地に適すべし
 - クレヅキヨール 此雞は羽毛黒く赤白羽を交え毛冠にして其毛冠の前に二角状の肉冠ありて奇異なり
 - ラフレツシユ 此雞は産卵雞なるも又愛翫的に飼養せらるべし此雞も亦二個の肉角冠を戴けり
 - ポイランド 此雞も毛冠にして。白毛冠黑色。白毛冠白色。爛斑金色。同銀色の四種あり



二 肉用雞の種類

- ブ ラ マ 此種に。暗色。淡色の二種あり共に寒地の飼育に適せず
 - コ ー チ ン 此種には。淡黄。真黒。純白。赤油。等の四種あり
- 以上の二種類は體軀最も偉大にして雄の充分成長を遂げたるものは往々二貫目以上に達すべし
- ラングシヤン 此種には。白色。黒色。の二種あり此種は寒國の飼養に耐ゆべし

三 肉用採卵兼有の種類

- ワイアンドット 此種に。銀覆輪。白色。金色。の三種あり
- ブリマウスロツク 此種には。單冠漣浪。藍薇冠漣浪。單冠白色の三種あり
- ド ー キ ン グ 此種には。銀灰色。白色。黒色。の三種あり
- レツドカツプ 此種は頗る大冠にして容姿甚だ可憐なれば愛翫的に飼養せられ寵を専らにすべし

四 鶯の種類

- アイルスベリ 此鶯は純白色にして且産卵多き最優等の種類なりとす且つ此鶯は抱卵に巧みなり
- ラ ウ エ ン 此鶯はアイルスベリの如く優等ならざるも孵化に巧みなれば巢鳥に用ひらるべし

- ベ キ ン 此鶯は白色にしてアイルスベリに甚だ似たる所ありて體量は同種に優るべし
- カ ャ ャ ガ 此鶯は體格稍や小なるも産卵多し

養雞年中行事

〇一月

此月は一年中最も寒氣凜烈なる氣候にあれば家雞の取扱も從て注意すべき事多し先づ第一に雞舎の温暖を保たしめ第二には食物の良好なるものを給して家雞の體温を保全せしめて冬期中と雖ども産卵せしむべき事第三には管理上總てに就て周密なる保護を要すべきなり

第一 嚴冬中寒氣に耐え温暖を保たしむるに足るべき雞舎は南或は東南に面したる構造にして周圍板造なるものも尙其外部に藁又は茅等を以て被ひたるものを最良とす若し斯る手當を成し難き場合には藁、蓆等にて被ふも可なり猶之も行ひ難きとき

は雞舎の内へ風の吹き入るべき透間あれば之を塞ぎ或は紙を張附けなどして之を防ぎ置くべし又雞舎内は成べく板張りど爲すべし若し板間になし能はざれば藁を細かに切て敷くべし又風雨降雪のありたる時には雞舎の軒下にて家雞の運動するに足るべき様構造すれば更に良しとす

第一 家雞は晩春より初秋までは粗食を供するも昆虫を啄食し或は種々の補助を得れども冬期は動物飼料に乏しく殊に此期節にありては雞體の温熱を保つ爲めには多くの滋味を要すべし然るに若し飼料の粗悪なる乎或は不足に給する時は冬期中の産卵を休むべし故に冬期中に於ては粗悪なる飼料を與ふるは却て不經濟なれば成べく營養ある飼料を給するを可とす冬期中家雞の飼料は唐黍、玉蜀黍、蕎麥の三種を混食せしむれば休卵するどなく且つ雞體の温熱を保持するに充分なりとす是に亞ぐものは小麦、燕麥、大麥、粟等の混食なり又補食として小肴の廉價なるもの或は乾魚の類、例へば干海老、ゴマメの如きものを日々少量づゝ給與すべし又冬期中は兎角

に青菜の乏しきを以て轆もすれば之を欠くとあり産卵雞に青菜は實に一日も欠くべからざる甚だ産卵に有要なる飼料の一なるを記憶すべし而して冬期中青菜を得ると養雞家の苦心する所なるが余が實驗及び諸他の經驗によれば京菜、ミナ菜、カキ菜、ウグヒス菜又は麥の若葉等は寒國に於ても之を前年の初秋に下種すれば冬期より春に至るまで家雞の菜食に窮するどなかるべし

第三 冬期にありては家雞を朝成べく遅く雞舎より出し又夕には成べく早く餌食を給すべし養雞の秘訣とも云ふべきは夕に與ふる飼料は良好なるものを充分に食せしむるにあり若し夕の餌食粗悪なる乎或は飼料を不足に給すれば翌日に至りて産卵する事なし例令産卵するも毎日産卵を續くると能はず且亦夕刻の飼料不足する時は晩くまで厩に就くとなくして尙餌を求めんとすべし故に夕餌を食し終りて厩に歸らざるは餌料の不足する確證なれば夕食は充分に給して早く厩に歸らしむるとは養雞經濟上の大切なる點なれば殊に注意すべき事なりとす又柵飼の家雞にありては柵内の

家雞が運動すべき場所には一面に藁を敷きて家雞の凍傷の害を防ぎ或は温暖を保持するを可とす此敷藁の汚れたるときは折々新たなものと取換へ其汚れたる藁は之を堆積すれば貴重なる肥料となるべし又此期節の産卵を孵化用に供すべきものは産卵を永く時函に放置するときには凍傷を蒙るとありて斯る種卵は孵化せざるとあれば雌雞の産卵了りて外に出るを俟て直に卵を取出して卵には月日を記して後箱に粗糠を詰其内に鈍端の部を下にして叮嚀に貯蔵すれば凍傷及び動搖するとなくして孵化用に適すべし

〇二月

此月は家雞蕃殖の好時節なれば此時機を逸さず蕃殖に着手すべし當月に於て成すべき事は第一家雞蕃殖前の心得第二巢雞の抱卵は之を成べく一齊になすときは數十腹の雌と雌ども成長の後之を一群となすとを得べし

第一 蕃殖すべき家雞の種類は孵化前に於て其利害を篤と考察して後之を撰定する

こと最も緊要なり是に氣附ずして一概に産卵多きものを以て利益あるものとは云ひ難き事情あるべし家雞飼育者が氣候風土を考へて家雞の寒國に耐ふる種類と暖國に適するものあれば之を斟酌して其種類を撰定すべきなり例之ばレクホーン、ミノルカ、スパニツシユは共に寒暖に耐ゆると雖も是等は單冠にして冬期霜雪の甚だしき地にありては凍傷に罹り易く一度雞冠に甚しき凍害を蒙るとあれば其凍傷は晩春に至らざれば全く治癒せざるべし故に寒氣の嚴烈なる地にありては齧齒冠或は毛冠の種類を撰定するが如きは其一例なりとす又養雞に就て其目的とする所種禽を蕃殖して之を專業となすにあらざれば多くの異種類を飼養するは極めて不得策なりとす若し種類の異なるものを多く飼養するときには其管理に手数を煩はし且つ其制御に至りても頗ぶる面倒なり故に經濟上より言ふも實用の養雞にありては一種類の飼養を行届かしむるときは利益多きものとす因て蕃殖の始めに於て爰に注意すべき事なり

第二 當月中に抱卵せしむるときは六月中旬入梅の季節に至り雞は孵化後最早百餘

日を経過せしを以て雛の爲めに恐るべき陰濕の氣に障るとなく且つ發育も最も速かなれば成るべく常月中に抱卵せしむべし

巢雞を用ひて一期に數十若くは數百羽の雛を得るには數羽若くは數十羽の巢雞を要す此巢雞の抱卵に前後あるときは從て孵化後の雛が成長に前後ありて其成長を遂ぐるに當り之を一群となすときは其勢力に著しき強弱の差違を生じて強は弱を制して其管理に手数を要するとあり且つ勢力劣りたるものは完全の發育を遂げざるとあり故に是を同時に孵化せしむれば蓋し其弊害は尠なかるべし然れども同時に數羽若くは數十羽の巢雞を得るとは甚だ困難なれば巢雞の悉く揃ふまでは最初巢に就きたるものには一二個の假卵を懐かしめ愈々巢雞の揃ひたる時を俟ちて一齊に種卵と取換て抱卵せしむべし

又巢雞の抱卵中には絶えず少量の濕氣を要すべし若し抱卵中天氣續きて大氣の乾燥する時は濕氣欠乏のため往々孵化せざるとあり故に抱卵を微温湯に浸すべきなど

あれど這は手数を要し且つ危険なれば是等の手数と危険を除き安全にして絶えず抱卵に濕氣を供給する簡便法あり其法は先づ巢箱の底に凡二寸程濕氣を含みたる土を敷き其上に少量の硫黃の粉末を散布し然る後藁を適宜に詰めて抱卵せしむれば絶えず水蒸氣及び硫黃氣は母雞の體温にて蒸發して濕氣を供給すべし之れ屢々吾人の實驗せし所にして好結果を得たり

○三月

二月中に於て孵化すると能はざれば當月より四月上旬までに孵化せしむれば雛の孵化後六十日以上を経過すれば雛の爲に忌むべき梅雨期の至るも雨濕のため甚だしき障碍を蒙るとなかるべし然れども成るべくは二月中旬より當月中旬までに孵化せしむれば雛の發育は充分なりとす當月は家雞の蕃殖多忙なる時なれば左の要點に就て怠たらず勉むべきなり

第一 少數の巢雞にて多數の雛を得るには是非巢雞の續坐法を行ふにあり此續坐法

は我國に於て昔より行はれ決して外國より傳はりたるにあらず天保より嘉永年間に
 涉り我國に於て大に家禽の流行せし事あり當時關東に於ては殊に流行せると甚しく
 此時總、房、常、武等の諸州に於て此續坐法なるもの盛んに行はれたり此方法は同
 時に抱卵せしめ甲の巢雞の孵化せし雛を乙の巢雞が孵化せし雛の内へ竊に混じて甲
 の巢雞には再び抱卵せしむるにあり巢雞の續坐は數羽若くは數十羽の巢雞を求めて
 同時一齊に抱卵せしむべし然れども斯る多數の巢雞を同時に得る事は頗る難き業な
 れば先づ最初に得たる巢雞には假に一二顆の普通の卵を懷かせ置き悉く巢雞の揃ひ
 たる時始めて假卵と種卵を取り換へ數羽若くは數十羽の巢雞を同時に抱卵せしむべ
 し然る時は孵化も又一齊になせば其内巢念の薄くして雛を愛育せんとする母雞を見
 定めて之に二三羽の巢雞が孵化せし雛を竊かに混ぜし之を行ふには夜中に於て竊
 かにすれば母雞は之を知らずして一様に愛育すべし而して其雛を取り去るには悉く
 孵化せざる内に於て雛の脱殻する度に移すべし然らざれば巢念を失ふとあり又雛を

夜中に移すを可とすれど事情斯の如く行ひ難き場合には日晝と雖ども室を闇くして
 移すときは殊更に夜中に於て移さるも可なり又其雛を取り去りたる巢雞には直ちに
 再び種卵を抱かしむべし此時注意すべきは續坐の巢雞には雛を啼鳴を聞かしめざる
 様になして之を離隔し置にあり又續坐せしめたる巢雞には往々羽虫の生ずるとあれ
 ば折々巢雞箱の藁を取換へ或は除虫菊の粉末を散布すれば羽虫の生ずるとなし又續
 坐せしめたる巢雞は衰弱するものなれば成べく滋食を給し魚類肉類の屑、青菜を欠
 かさず與へ砂浴は怠らずなましむべき様取扱ふべし

第二 此月は植物の移植に適すれば家雞の運動場には暑中の炎熱を避けしむる爲め
 菓樹を植へ或は桑樹葡萄青桐等を植えて可なり然し幼苗を植ゆるには根部の周圍に
 竹木を廻らして家雞のために掻荒されざる様に注意すべし

第三 家雞に與ふべき青菜は此月より五月下旬迄毎月下種すれば初夏迄に青菜の絶
 ゆるとなかるべし

此月は雌雞の續々巢に就く期節にして元來種卵を孵化するには二三月を以て好時機とするも意の如く巢雞を得難き場合には此月の中旬までに抱卵せしむれば其成育に晩れて未だ梅雨の障碍を蒙るとなかるべし諸當月に於て成すべき事は第一雞舎の掃除を怠らざる事第二育雞の注意等なり

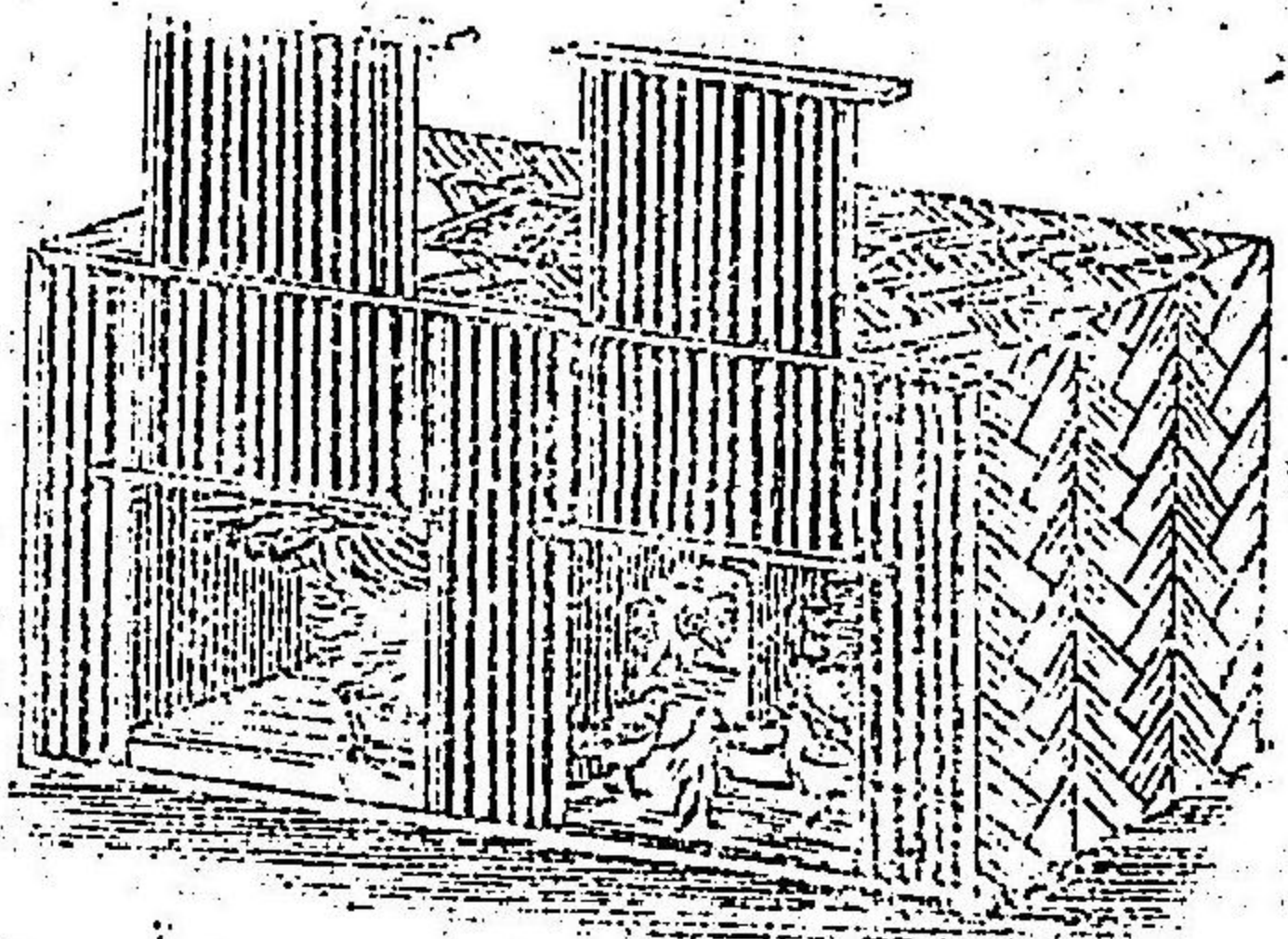
第一 彼岸後よりは追々羽虫の發生するものなれば當月よりは殊に雞舎の掃除を怠るべからず雞舎は月に二回程大掃除を行ひ生石灰水或は石鹼水の強きものを板壁、板間、器具等に注ぎ掛くべし又一週間に二度程は雞舎内を掃蕪め雞糞を落す場所には常に切藪を敷きて其上に放糞せしめ又糞の上には生石灰或は木灰を毎日一握程づゝ散布すべし

第二 雞の脱殻するや一腹の雞同時に悉く孵化するものにあらずして多少の遅速あるを免れず此際母雞は尙巢に伏して未だ脱殻せざる卵を温むべし先に脱殻したる

雞は一晝夜即廿四時間は其儘巢箱の内にありて母雞の腹下に己が濕れたる羽毛を母雞の體にて乾すものとす其間に於て悉く脱殻して雞に化すべし雞は脱殻せしときより二日間程は少しも食物を與へざるも飢餓するの憂ひなきなり其故は雞が殻内にありたるときは蛋黃を餌食となし脱殻の後も尙腹中に残れるものなれば別に餌食を給せずして可なり此際雞に最も必用なるは母雞の庇護にして其濕れたる羽毛を乾かし且つ寒さを感じせしめざるに在るなり

雞の生れて二日目以後に與ふる餌食は小米を暫時水に浸し箆に揚て水を切り之に川魚の焼きたるものを細末に刻みて尙青菜の細かに刻みたるものを混和して之を荒く煉り交せて低き餌箱に少量づゝ盛りて二三ヶ所に配置し一日に五六度與ふべし又孵化後二日を経て四五日間には雞卵を瀡きて蛋黃を細かになし之に青菜をも小さく刻みて與ふるも可なり又小米を暫く水に浸し直に引揚げ之に雞卵を鍋に入れよく攪拌して火にかけ鳥渡煮立て直に引揚げ暫く置きて冷たる頃與ふるも宜かるべし又母雞が

雛を愛育するのあまりに出で四方を掻荒し過ちて雛を足にかけ踏殺すとあり又母雛が雛の滋食を喰ひ盡すとあり故に之を防ぐには是までに育雛箱なるものありて都下の養雛場には之を使用し來れり未だ此育雛箱の構造法を知らざる土の爲めに下に其圖を掲ぐ此箱は長さ二尺五寸より二尺八寸横一尺六七寸高さ一尺五寸位にして長さの三分の一の所に目の荒き格子を造りて其下に半圓形の口を開きて狭き方へ母雛を入れ置き廣き方は雛のために砂を敷き置ときは雛は廣き方にて運動し勞るゝときは母雛の在る狭き方に至りて母雛の腹下に安息すべし又雛の滋食は母雛の嘴の届かざる所に置くときは雛は隨意に食を喰ふべし母雛には別に餌を給すべし但し母雛の食物も成るべく柔らかき消化の易く雛が母雛の餌を喰ひて害なきものを撰びて給すべし



孵化後一週間以上経過したる雛にありては晴朗なる天氣には午前十一時より午後三時頃までに凡二時間程外に出して遊ばしむべし夫より退々日を經るに従て三時或は四時間程外に放つべし然れども曇天或は風雨の日には決して雛を外に出すべからず育雛箱は木にて作るを常とす右の畫にア
シロ又は編竹の如くあるは畫工の誤なり

○五月

此月は雌雛の續々巢に就くものなれど最早農家は退々多忙になり養蠶家は此月の上旬より蠶業に従事すれば此際に種卵を孵化するは甚だ不得策なり况や入梅間近き時季にあれば旁々以て宜しからずとす諸當月にありては既生の雛が成育に就て心を用的亞で雛の食物に注意し或は巢に就かんとする雌雛の巢念を離散せしむるなど專要とす

第一 健全なる雛を仕立つるには殊に食物を精撰すべし其食餌は雛の骨格を構成な
さしめんが爲に多量の磷酸石灰分を要するものなれば鳥獸の骨を打碎きて之を粉末

となして日に二三回づゝ穀物、青菜等に混じて給すべし。雛の下痢症に罹るものは其多くは食物と水の汚穢なる事よりして起るものなれば雛の食餌には胡椒及び砂粒を混じて與ふれば其咽喉を刺激し或は胃中に入りて消化を助け其氣勢を盛んならしむると絶妙なり。今讀者の注意を促さんが爲め雛の主食及び補食、雛の下痢豫防薬餌等を左に舉示せん

雛の主食

小米。大麥。燕麥。小麥。蕎麥。玉蜀黍。唐黍。粟

雛の補食

骨粉。砂粒。青菜。肉類

雛の薬餌

木炭末。胡椒。イスト。蕃椒。硫黄末。木灰

但し穀物は總て引割に製して與ふべし

第二 雌雛の巢念を發したるときは之を防ぐの法種々あり或は雛を暗處に置きて一兩日間程絶食せしめ或は雛體を冷水に浸して其体温を減殺せしむるが如きは實に殘酷なる取扱ひ法なれば斯る拙劣なる事は避くべし最も簡便にして且つ有効なる法あり先づ大形の箱を造り其前面及後面を竹格子となし内に四五本の止架を渡し置きて雛を此箱内に容れ置ときは雛は恰も止木に止れるが如くして常に安坐すると能はず而して此箱に日光の透射を充分にし且つ他の雛を放ちて此箱の周圍に於て他雛に給食し又箱内の雌雛にも多量の食物を給すべし斯るときは巢念を去ると速かにして毫も其健康を害するとなきのみならず三四日にして巢念を去りて未だ一週間を経ざるに早や既に産卵を始むるに至るべし尙是より一層簡便なるは伏籠に雌雛を二晝夜程伏せ置き此間飲料水と青菜を給し穀物は日に一度少量に給するときには巢念を去らしむべきも前法に及ばざるべし

○六月

此月は家雛の飼育に最も困難を感じる所の梅雨季節なれば雛を育つるには殊に要慎して飼養せざるべからず第一に雛が雨濕の障碍を蒙らざる様注意し第二雛の下痢に

罹りたるとき之を治する法第三雛を母雛より離隔するに就ての注意等なり

第一 養雛の最も困難なるは雛を育つる事にして其内殊に梅雨の頃にありては其管理あしきときは折角の丹精にて健康に育て来りし雛も此季節に於て雨濕に罹るときは續々斃死するとありて飼育者の甚はだ落胆することあれば此際注意すべき事は食物の腐敗したるものを與へなどし或は貯箱の掃除の届かざるより或は食器其他の不潔などよりして下痢に罹り又は冷濕の氣に觸れて下痢病を起す原因となれば随分下手當をなすべき事なりとす又多數の雛を育つるに此際降雨連日冷氣一層甚だしく雛を屋内の廣庭か或は物置場などにて焚火し或は炭火にて暖をとりて雛を内にて遊ばしむべし家禽舎の如きは甚だ狹隘なるものなれば從て冷濕を感ずるとも多かるべし雛は此季節にありて降雨の時には母に放任して外に遊ばせ冷雨に胃さしむる等の事ある可らず

第二 雛の下痢に罹り易きは前述の如く食物の腐敗或は管理の不充分より生ずると

多きものなれば下痢に罹りて治方を求めんよりは寧ろ始めより注意して下痢をなましめざる様に飼育するを萬全なりとす故に是が豫防には必らず日に朝夕二回の給食には木炭の粉末或は胡椒或は骨を交々少量づゝ混じて與ふべし是れ實に雛の下痢を防ぐには奇効ありて且つ容易に成し得べき方法なりとす又雛の下痢に罹りたるときは百分中木炭七十五分、骨粉十五分、オート十分の割合にして小米、青菜、川魚を焼きて刻みたるものに混じ極少量の水を注ぎて能く攪拌して與ふれば治すべし又雛の食慾を減じて氣勢衰をたるときは胡椒少量を食物に混ざるが或は食物に少量の酒精を注ぎて與ふれば大に氣勢を増し食慾を進むべし

第三 雛を母雛より離隔するは通例孵化後五週間目より八九週間に於てするも梅雨の季節にありては降雨冷濕のために雛は母雛を慕ひて其腹下に入りて温まりて冷氣を凌ぐものなれば此季節には雛を母雛より離隔せざるを可とす
又成長せし家雛の爲にも梅雨中は殊に雛舎の掃除を怠るとなく器具其他を總て清潔

になし食物に注意すべし若し産卵雞にして下痢せば成べく水分多き飼料を與へざる
機になし其食物には必ず硫黄の粉末或は骨粉木炭末などを食物に混じて給すれば下
痢をは速に治癒すへし又雨の浸さるる所にて砂浴せしむることを勉むべし

○七月

此月は梅雨上りて唯雞は續々産卵すべければ飼料の點に注意して産卵に必要な石
灰質を給すべき事或は家雞の運動場の日避け或は羽虫の驅除法等に就て最も注意す
べきなり

第一 産卵雞に欠くべからざるものは卵壳となるべき石灰質にして之は年中常に家
雞の運動場に備へ置くべし諸石灰質を安價にて得るには諸種の貝壳を碎きて與ふべ
し

第二 此月は大暑に向えば輒もすれば餌の酸敗せしものを食して下痢に罹るとわれ
ば木炭末を少量づつ飼料に混じて日之之を給すべし

第三 家雞の運動場には暑氣を凌ぐ爲に諸種の菓樹或は葡萄樹桑樹等を植付べき事
は三月の部に於て述べたる所なるが苗を植付未だ日避となすに足らざれば絲瓜瓢
蕪向日葵草などを植て日を蔽ふべし

○八月

此月は炎暑酷熱の氣候にして管理法あしきときは唯雞の休卵するとあれば成べく雞
舎を清涼になし雞の暑氣を避けしむる様に工風すべし諸當月成すべきは左の要點な
りとす

第一 雞舎は南面に窓を設け金網か或は無双窓に出來置き夜中外部より害敵の侵さ
ざる様開閉自在ならしむべし又雞舎の西面には樹木を植付あるときは西日の爲に家
雞の夜中苦熱を感ずるとなかるべし

第二 家雞に給すべき水は日々に一二回づつ清冷なるものを取換て日光の直射せざ
る場所に掛け置き其水中には古釘を絶えず五六本投入し置べし總て家禽の健康に鐵

氣は甚はだ有効なり

第三 此月は羽虫の發生すると甚だしきを以て雞舎内の清潔法は平常よりも一層精密になし又掃除終れば生石灰を撒布すべし且時々家雞を捕へ頭毛を別けて羽虫の有無を檢して既に發生せしを見れば直ちに雞舎は勿論器具一切に蒸蒸法を行ふべし之を施行するには土器又は皿の不用物に硫黄を盛り之を火に掛け置ときは雞舎内に蒸氣充滿すべし器具一式は蒸蒸せる雞舎内に入れ置きて戸を閉し置くと凡三時間程に及ぶときは害虫は總て死すべし又家雞には濡たる手拭にて毛羽生したる全部を濡して除虫菊の粉末を振り掛くべし殊に頭、額は家雞の爪の届かざるを以て羽虫の群棲するものなれば叮嚀に除虫粉を注ぎ掛くべし若し除虫菊の手に入りがたきときは「のみよけ」粉と稱ふるものを用ゆべし之は各地方の賣藥店にて賣捌くものにして除虫菊より製したるものなり

第四 青菜は三月より五月迄に退々下種したるものは此月の下旬迄絶ゆるとなし此

月より十月下旬迄に退々播種すれば翌年の三四月に至る迄青菜の欠乏するとなかるべし

○九月

此月は養雞者の甚はだ愉快なる季節にして二月下旬より三月上旬に於て孵化せし雞は最早當月より産卵を始むべく又雌雞は一般盛んに産卵すべし且又八月より當月へ掛けて家雞飼料は最も豊饒なれば此際貯藏なし得べきものは秋蕎麥、玉蜀黍、唐黍、粟、馬鈴薯、甘藷、麻の實等にして之等のものは適宜に乾して虫害或は腐敗せざる様手當をなして冬期及び春期の飼料に貯蓄するとを努むべし

此月は馬鈴薯、甘藷の屑は廉價にて多量に購入し得べければ多數の飼雞者は是等の廢物を逸さず購入して貯藏に耐ゆるものを撰り別て貯蓄し腐敗し易き分は此際日々の飼料に給すべし馬鈴薯、甘藷等を家雞の飼料となすには一度洗ひて腐敗せし部分は之を切り棄て大鍋或は大釜にて蒸し薯の芋に通るを度として火を引き暫時其儘にな

し置き後臼に入れ米糠、糠を混じて搗き交ぜ之を團子の如くして地に投ずれば碎くる加減に造りて與ふべし亦之に骨粉、木炭末を混じて與ふれば産卵雞に効用あるのみならず下痢に罹る患苦はなかるべし

又此月にありては川魚類を捕獲して之を申に通して一度焼きて能く干乾し然る後藁ツトに挿して空氣の流通よき場所に猫、鼠の掛らざる様に吊し置くときは明春雞の餌となすに適當なるべし又鰻の頭なども右と同様の仕方にして貯ふべし

○十月

此月も産卵すること多きを以て殊に飼料は夕刻に充分に與へて成べく早く疇に就かしむべし當月下旬より十一月にかけて家禽の羽毛生へ換るべし即ち此換羽期前に於て成べく滋養多き飼料を給すべし屑肉、川魚及び海魚の殘物等を日々少量づゝ給するときは換羽期至つて短かく休卵するとも又從て短かゝるべし且つ骨粉は常に與ふべきものなれど此際は朝夕兩度に與ふべし

又當月上旬までに於て菜の種を下種すべし若し此期節を外しなば降霜の節には菜の種を播種するも最早成長充分ならざるべし此節に播きたるものは冬期及び明春の青菜に間を欠くとなかるべし

又家禽場に菓樹、桑樹、葡萄等を植ゆる季節は一年兩度にして即ち春の彼岸前後、秋落葉の頃なれば此季節に於ては油断なく樹木の移植を務むべし且亦桑園に家禽を放牧するには先づ桑苗を移植し而して一二年の後になさゞれば桑樹の根部未だ強固ならずして害あるべし其桑樹は中刈に仕立つべし

○十一月

此月は家禽の換羽期なるを以て孵化後二年に過ぎたる雌雞は其多くは産卵せざるものとす故に二年以上の老雞にして産卵せざるものは此際屠殺用に賣出すべし又此月は稻の收穫時節にして糞を得るに安ければ之を多量に購入して一年の飼料に貯藏すべし家雞事業の如きは年中油断なく飼料の貯藏を心掛けて一年の設計を立て經濟の

點に就て注意すべし

第二 換羽期にかゝりたる老雞にして最早産卵の盛期を過したるものは之を飼養するも收支相償はざれば此際玉蜀黍、大麥に馬肉の屑などを煮て日々多量に給し速に肥體せしめて屠殺用に賣出すべし此節よりは漸く雞肉の需要多くして其價格を騰貴するを常とす

第二 此月は稻の收穫時期にして多量の糞出づれば之を廉價に求めて一度大釜にて煮立然る後大箆に上げて水分を去らしめ之を筵に擴げて干乾して能く乾きたるものを俵に詰めて貯藏して是を年中の飼料に給すべし家雞に糞を與ふれば産卵せずとの迷説あり然れども之を一度蒸して給すれば産卵雞は少しも害なしと雖ども此飼料のみを給するは大に不可なれば日々一度位つゝ與ふべし

○十二月

此月の家雞管理法は一月の取扱法と異なるなし第一雞舍を温暖ならしむべき事第

二取扱法及び運動場に就て左の注意あるべし

第一 雞舍は殊更に温暖ならしめん爲め雞舍の窓及び其周圍より風の吹入るべき透間ある所には紙を張り又家雞の止り架には繩を巻いて趾の凍傷を防ぐべし

第二 雞の運動場には一面に粉糠を敷き詰めて雞趾の凍傷を防ぎ或は温暖を保持するの要とす又飲水の氷るときは微温湯を給すべし青菜は欠かさず給すべし産卵には青菜は大切なる關係あるべし卵の蛋黃の變色は要するに青菜の欠乏に由るべし故に熟練せし養雞家は卵を驗して其飼料の善惡を知るなり
尙管理行届きたる家雞は嚴冬炎熱の氣候と雖ども能く産卵せしむるを得べし

實用養雞全書後篇終

跋

曾て虎を見、豹を見又牛を見、鹿を見る彼何爲ぞ敏捷にして強健、是何爲ぞ驚鈍にして柔弱なる、人は曰ふ彼は肉食にして是は草食なり二者食物の相異則ち此性を馴致せりと

養雞は人の食卓に肉卵を供し強健ならしむるの捷徑にして本書其要を示せり今や本邦養雞の業頗盛なりと雖も養雞の書頗多しと雖も余輩は尙其慊らざるを覺ふ況んや本書の如き別に二頭地を拙き從來曾て見ざるの良書なるをや余は此の如き良書發刊の榮を得たるを喜こぶ

本書全編は杉田文三君の手に成る君は埼玉縣比企郡大河村の人、家世地の素封たり君志農に篤く率先同志を糾合し農談會を開き農會を組織す同地に大日本農民會農友團等の同盟員多きは皆君の誘導による

君の書已に世に行はるゝもの秩序整然編纂最も宜しきを得たりと稱す今や稿已に脱し世に出んとするものあり其世を益する必らず少からざらんを信ず

後篇は淡海藤井米八郎君の手に成る君は江州の人最も實業を好み東北の野、甲信の地、遠く小笠原島の邊に至るまで普ねく跋涉して養蠶牧畜及養禽等の事を學べり福島縣菅野平右衛門翁の如き君の篤志を感じ之を子とし教へたり君今東京にあり其蘊蓄する所を以て太陽(殊に家庭欄)農業雜誌毎日新聞及女學雜誌等に洩し最も當業者を裨益せり君温厚篤實而も勇剛、忍耐、其理を究め其奥に達せずんば止まず其品性自然にして故國の粹を顯はすを見る

君亦經濟の道に通じ學農社津田仙先生、毎日新聞島田三郎君等皆君を信じ委囑する所あり

府下王子村農務局試験場の邊周圍に板塀を回らしたる中に二三の家を列し數十の兒女書を讀み工を習ふを見む是即往年濃尾の震災其父母を失なひ兄弟に分れ孤影天地

に憑なきの可憐兒にして當時壯年慈善家大須賀亮一氏携さへ歸りて養育し今日に至れるもの所謂王子孤女學院是なり

大須賀君近日白痴病研究の爲、海外に渡航せんとし後事を君に托す君奮て之に當らんとし已に居を其傍に移す

本院は大須賀氏が自費財を擲つて維持するもの、固より世の養育院孤兒院一派のものゝ異なり藤井君は是より孤女に養益、養雞の業を執らせ獨立の道を教へ自治の業を修めしめんとす余輩は其誠に美事たるを疑かはず

君の居は府下王子村宇森下五百十七番地にあり

余は二君の知を辱ふし此光榮ある書を出板するに方り一言之を末尾に述べて本書を讀者に紹介す

明治廿九年四月墨隄十里白雲を漲らすの時

三街樵夫 池田次郎吉謹識

明治廿九年四月十八日印刷
同年同月二十三日發行

定價金貳拾錢
郵税金



編輯者 池田次郎吉
發行所 池田商店

發賣所 池田商店
印刷者 高田乙三

印刷所 英舍
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

東京日本橋區通三丁目 丸善株式會社
東京麻布區本村町 學農社雜誌局
同 一丁目 大倉孫兵衛 同赤坂溜池町 東京興農園
同京橋區南傳馬町二丁目有隣堂 大阪 岡島眞七
同神田區表神保町 東京堂 京都 平瀬種禽園

池田商店發賣書目

静岡縣老農梅原寬重君著述(農事期節便覽大増補改題)

永代 農家曆全

正價金拾貳錢郵税金貳錢

(郵券代用五厘切手にて一割増に限る)

園事曆

代價及委細の事
次の丁にあり

農は最も天時と關係あるものにして其播種耕耘何れも天時に依らざる可らず此書毎月を上中下旬の三に分ち其時節に應じ各種作物花卉其他植物の播種、施肥、移植、分栽、接穂等を始め一切の耕耘、管理等を列記し又最新改良農法を記述したり此書を備ふれば積曆なくとも農時を知り多收多穫を得べく農家諸君何を置ても之を備へざる可らず

著者既に農事期節便覽を著しし曾れく天下の寶典となり初版二版八千部を賣盡せり本書は即ち第三版大増補なり今後農事期節便覽は出版せず

園事曆全

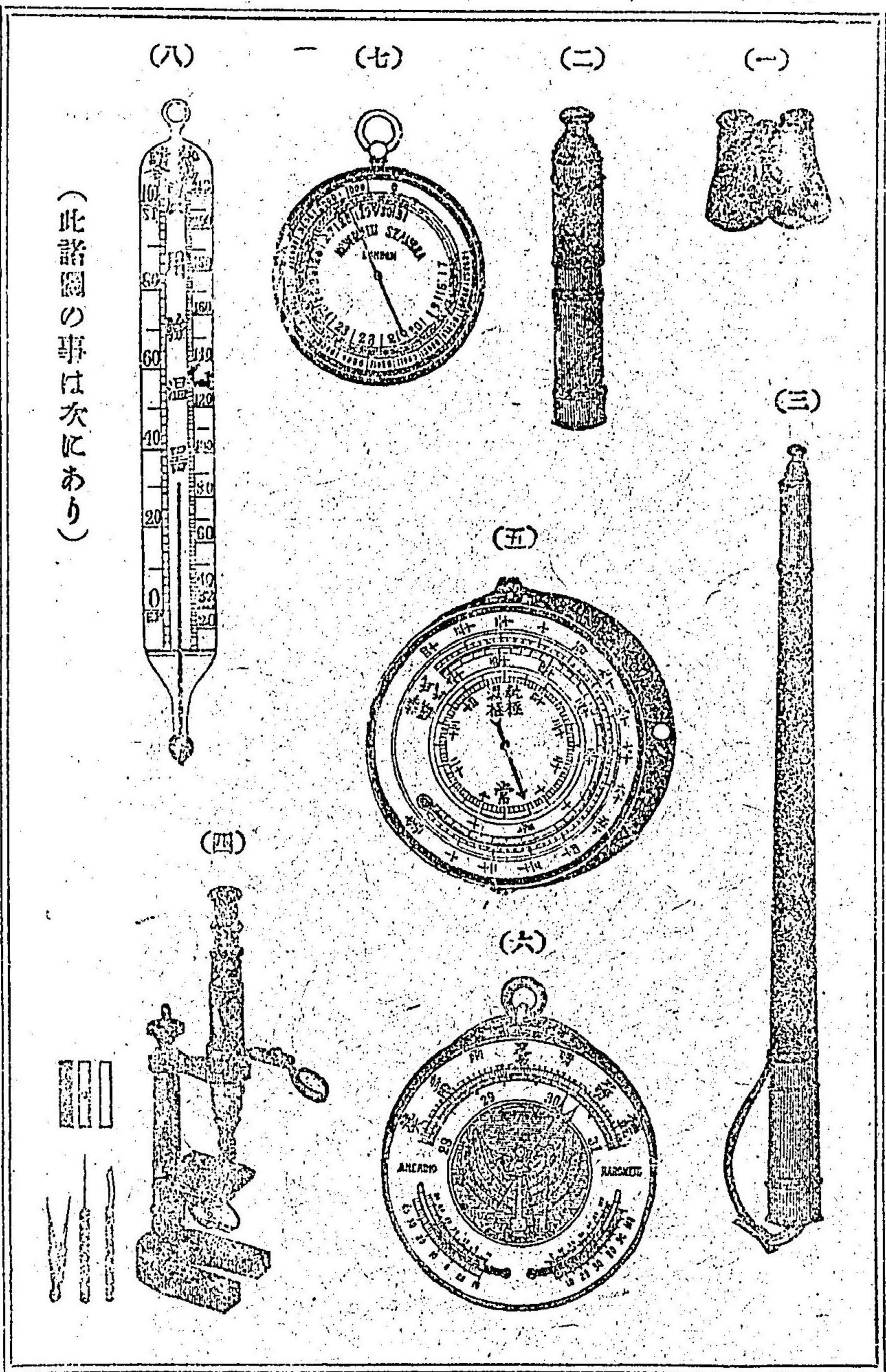
定價金貳拾錢 郵税金貳錢

郵券代用は五厘切手にて一割増の事

(明治廿八年十月廿五日發賣)

此書は草花竹木及盆栽等の仕立方手當等を一年十二ヶ月に區分し毎月其觀賞すべき種類につき深切に記述したるものにて之によらば何の月には何の花物あり又何の植物は其月如何に手當すべきや等最も詳細に知るを得べし且英園菜園等の仕立管理をも洩れなく記述せり左れば所謂園藝にかゝる一切の事は此書に於て盡せり管に園事の期節のみならず其方法をも知るに足る此書は日本園藝會創立者にして園藝事業取調の爲に歐米諸國を遊歴せられたる吉田進君と又曾て宮内省に奉職し多年禁苑の御花物御庭園等の管理をなしたる曲辰生との兩君の手に成りたれば其有益なるは云ふ迄もなし

是迄世に花戸園丁の秘密悉く之に顯はる



(此諸圖の事は次にあり)

農業家、養蠶家、衛生家、
 家、醫家、商家、工家、
 及學生諸君等に最も便
 利なりとて各新聞雜誌
 上に好評を博し實地使
 用家の賞状を得たる

良實用
百倍鏡
頭鏡

新野新聞批評、顯微鏡が農工醫家其他諸事に必要なるは言ふ迄もなければ其價高くして一般農家等には購求する能はざる所を會て麻布學農社(津田仙氏管理)にありて農業雜誌編輯に従事し數年間普く全國各地の農況を巡視したる牛込神樂町三丁目六番地池田次郎吉氏は頃日百倍顯微鏡なるものを製出したりと云ふ(二十七年六月廿二日發行)

自由新聞批評、頃日池田次郎吉氏百倍顯微鏡を製出せり能く細微の物質を顯し尤も農工業家に便利なる者の由(同上發行)

農業雜誌批評、百倍顯微鏡は其價格の廉なるに似ず能く細微の物を明瞭に現はすは至極便利なり記者此頃同氏の携ふるものを受て之を見るに斯る價にして細微の物質を鮮明に顯はすものは曾て見ざりき(二十七年五月五日發行)

右の如く此顯微鏡は最新最良の發明にかゝる良器なれば陸續御注文を乞ふ
 晴雨計其他諸品も確實良善のもの差上候間不相變御愛顧被下度候也

調御
 進用

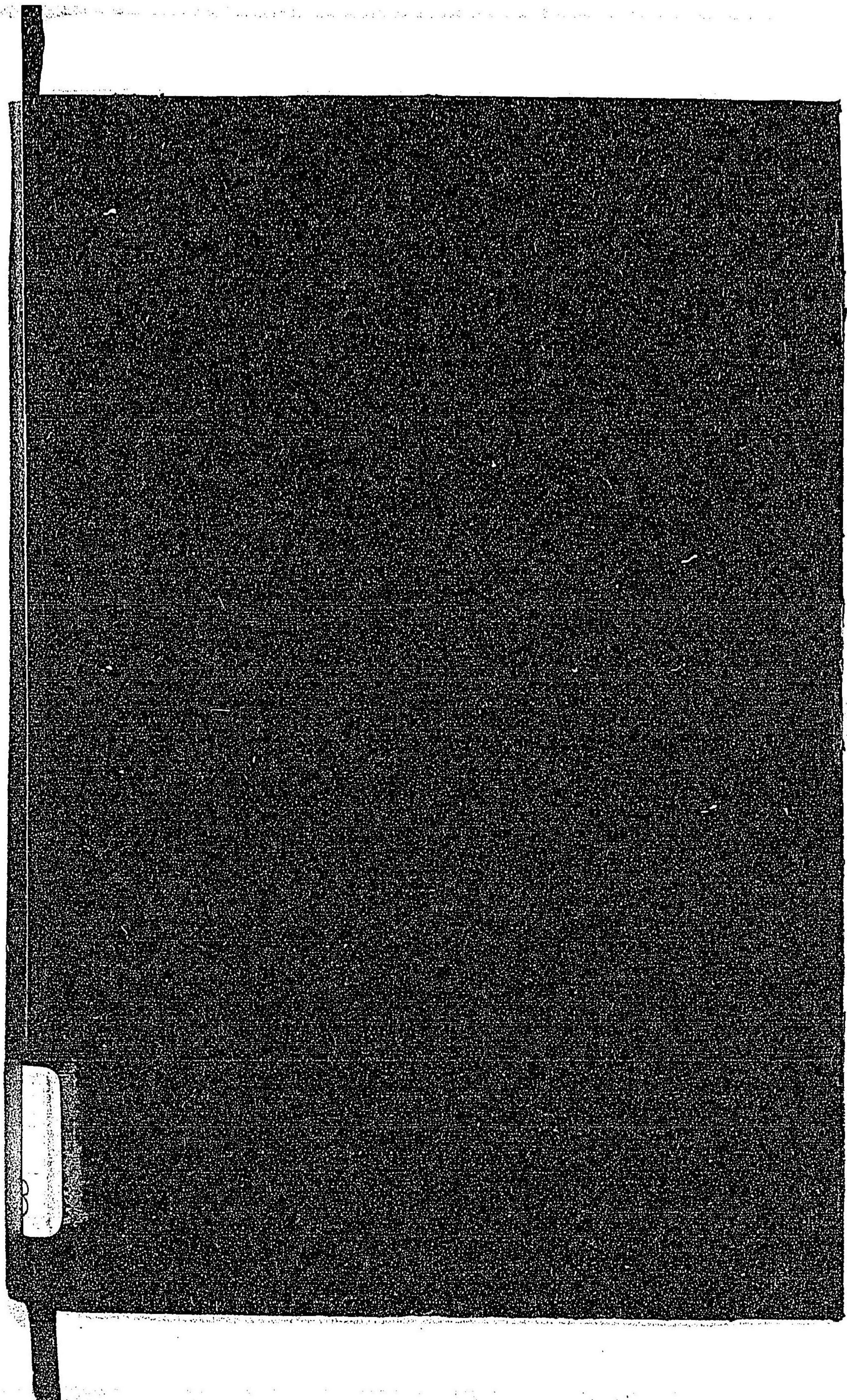
東京市牛込區神樂
 町三丁目六番地
池田商店

送個
 金壹圓八拾
 送費
 金拾貳錢

池田商店發賣器械目錄

- (一) 雙眼鏡 金四圓五拾錢 金八圓 金拾貳圓 金貳拾五圓 遞送費一個金貳拾錢宛
- (二) 望遠鏡 金七拾錢 遞送費金拾錢 上等壹圓五拾錢 遞送費金拾六錢 以上金拾七八圓迄より貳拾五圓まで
- (三) 軍艦用望遠鏡 金五圓 金八圓 金九圓五拾錢 金拾七圓 金貳拾五圓 金參拾圓 金五拾圓 遞送費此外に申受候
- (四) 顯微鏡 六百倍大器金四拾八圓也 遞送費此外に申受候 同 小器金參拾八圓也 遞送費此外に申受候
- (五) 專賣特許寒暖濕乾計 金六拾錢 金八拾錢 金壹圓 遞送費一個金四錢づゝ
- 乾濕一本立乾濕計 金五拾五錢 遞送費八錢
- (六) 晴雨計 金七圓 金拾八圓 遞送費金四拾錢づゝ
- (七) 懷中晴雨計 金貳拾五圓 金五拾圓まで
- (八) 熱湯請合農用驗温器 筒入一本金五拾錢 遞送費金拾錢
- 最上標準寒暖計 筒形一本金壹圓參拾八錢 郵税金拾貳錢
- 同 普通形狀 上等金八拾錢以下金八錢まで

68
383



3

實用養鶏全書



064809-000-9

68-383

實用養鶏全書

杉田 文三

藤井 米三郎 / 著

M29

CCD-0261

